

教育委員会の権限に属する事務の管理及び  
執行状況に係る点検及び評価に関する報告書  
(平成23年度版)

平成24年9月

名古屋市教育委員会



## はじめに

平成19年6月、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、教育委員会では、毎年、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会へ提出するとともに市民に公表することが義務付けられました。この法改正は、教育委員会が事務の管理・執行の状況を自ら点検・評価することにより、より効果的な教育行政を推進するとともに、市民への説明責任を果たすという趣旨に基づくものです。

名古屋市教育委員会では、計画期間が23年度から始まった「名古屋市教育振興基本計画」の進行管理を通じて、平成23年度に取り組んだ事務の点検・評価を行いました。本報告書によりその結果を報告します。

### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十七条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

< 目 次 >

第1章	教育委員会による点検及び評価	
1	点検及び評価の概要	..... 1
2	評価の説明	..... 2
3	施策体系図	..... 4
4	点検及び評価の結果	..... 5
第2章	学識経験者による評価	..... 70

# 第1章 教育委員会による点検及び評価

## 1 点検及び評価の概要

### (1) 目的

教育委員会が、事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その報告書を議会へ提出し、公表することにより、効果的な教育行政を推進するとともに、市民への説明責任を果たします。

### (2) 点検・評価方法

計画期間が23年度から始まった名古屋市教育振興基本計画の進行管理を事務の点検・評価の手法としました。

評価方法は、施策単位での評価(施策6は分野ごとに4分割)とし、施策単位で「評価票」を作成しました。さらに5つの「施策の基本的方向」単位で総括的な評価を行いました。

### (3) 教育に関する学識経験者の知見の活用

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第2項の教育に関する学識経験者の知見の活用については、8月23日(木)に知見委員会議を開催し、学識経験者から意見・助言をいただきました。

学識経験者については、本市の教育行政に識見のある6名に依頼しました。

#### <知見委員名簿>

天谷 昭裕	ジェイアールセントラルビル(株) 代表取締役社長
加藤 玲子	名古屋市地域女性団体連絡協議会 会長
栗田 千尋	名古屋市教育振興基本計画検討委員会 公募委員
竹内 敏子	中京大学 教授
日比野 勝	元学校法人河合塾特別顧問
吉田 淳	愛知教育大学 教授

(五十音順・敬称略)

## 2 評価の説明

### 施策2

基礎基本を着実に身に付け、個に応じて学力を伸ばすとともに、創造性あふれる心やチャレンジ精神を育みます

めざす姿

基礎基本を身に付け、主体的に学力を伸ばしていこうとしている

#### ◆施策評価

##### 目標への到達状況

成果指標	22年度 (策定時)	23年度	24年度	25年度	(目標)
基礎的な学力が十分定着している児童生徒の割合	74.5% (21年度)	△△%			78.0%

原則、平成 23 年度実数値を記載。  
事情により平成 23 年度以外の値を使用する場合は年度を併記。

##### 施策への貢献度及び目標に対する評価

○

○

○

○

施策の「めざす姿」や「目標への到達状況」に対し、事業を実施することで得られたと考える効果や成果を記載。

##### 今後の方向性

○

○

計画の初年度における取組みを踏まえ、平成 24 年度 of 取組み内容を含めた今後の展開を見据えた方針や課題認識について記載。

◆事業の実施状況（23年度）

事業名【所管】	基礎学習・発展学習【指導室】				
23年度決算額	△, △△△千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
基礎的な学力が十分定着している児童	74.5%	△△%			78.0%
事業の実施状況					

平成23年度の決算額を記載。

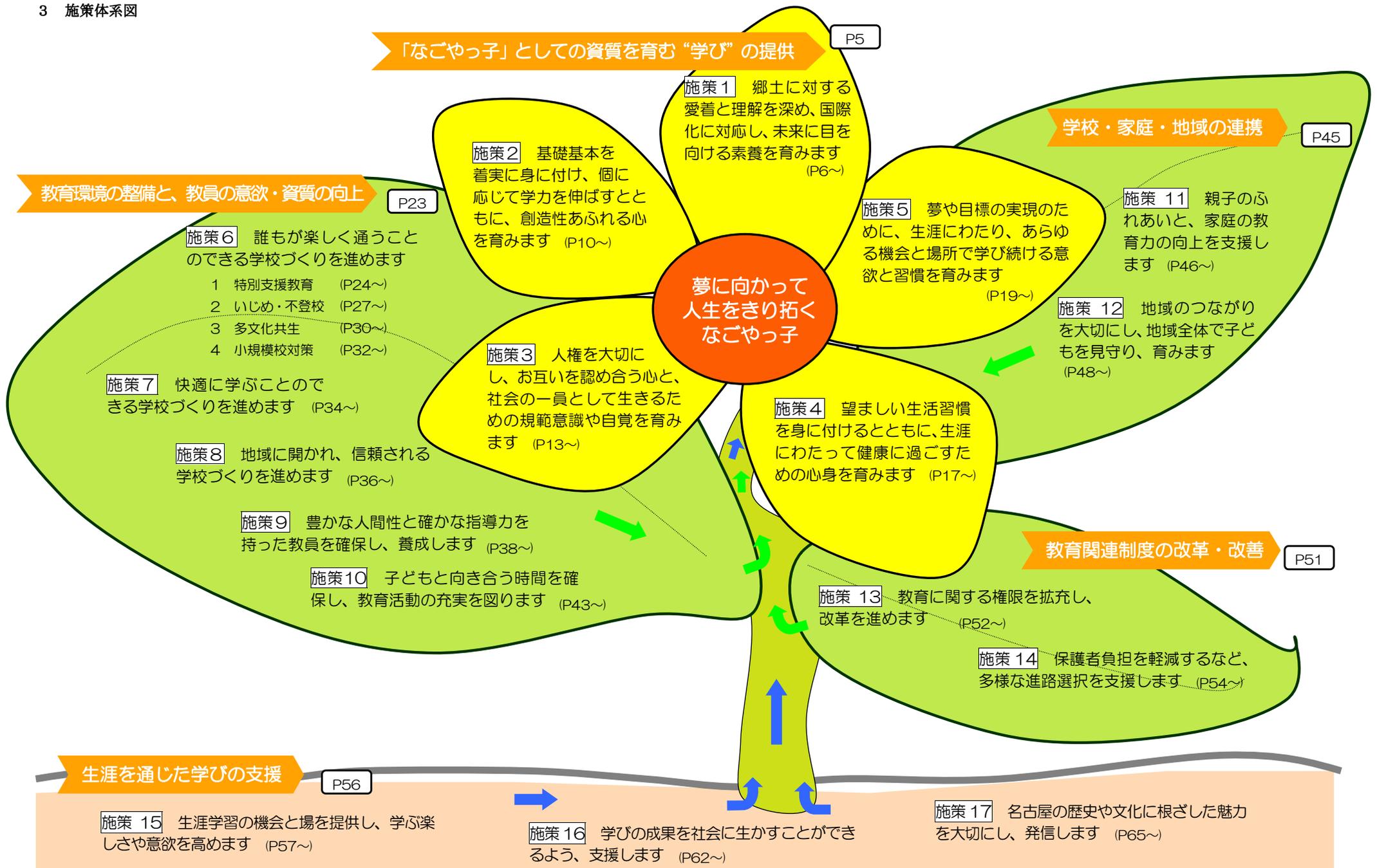
平成23年度に行った主な取組みについて記載。

原則、平成23年度実数値を記載。事情により平成23年度以外の値を使用する場合は年度を併記。

事業名【所管】	少人数教育【指導室・教職員課】				
23年度決算額	△, △△△千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
学習状況、学習態度等に関する学校アンケート（5段階評価）の平均値	4.31	△△			4.50
事業の実施状況					

事業名【所管】	学力向上サポート事業【指導室】				
23年度決算額	△, △△△千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
基礎的な学力が十分定着している児童生徒の割合	74.5%	△△%			78.0%
事業の実施状況					

事業名【所管】	国語力向上推進事業【指導室・図書館】				
23年度決算額	△, △△△千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
国語の基礎的な学力が十分定着している児童の割合	73.9%	△△%			78.6%
事業の実施状況					



## 4 点検及び評価の結果

### (1)「なごやっ子」としての資質を育む“学び”の提供

郷土学習の推進や少人数教育の充実、基礎学習の充実、人権教育の推進、望ましい生活習慣の育成、体力の向上、社会教育施設における講座などの実施により、この計画でめざす「なごやっ子」としての資質を育む学びを提供していきます。

- 施策 1** 郷土に対する愛着と理解を深め、国際化に対応し、未来に目を向ける素養を育みます
- 施策 2** 基礎基本を着実に身に付け、個に応じて学力を伸ばすとともに、創造性あふれる心やチャレンジ精神を育みます
- 施策 3** 人権を大切にし、お互いを認め合う心と、社会の一員として生きるための規範意識や自覚を育みます
- 施策 4** 望ましい生活習慣を身に付けるとともに、生涯にわたって健康に過ごすための心身を育みます
- 施策 5** 夢や目標の実現のために、生涯にわたり、あらゆる機会と場所で学び続ける意欲と習慣を育みます

#### 施策の基本的方向における評価の総括

##### 【おおむね順調な分野】

- 「なごやっ子」としての資質を育む上で、全体としては、知・徳・体のバランスのとれた“学び”の提供に努めました。
- 「郷土を思い、世界と未来に目を向ける」、「互いを認め合い、社会の一員としての自覚を身に付ける」、「望ましい生活習慣と健やかな体を育む」といった分野では、広く学校に浸透した着実な取組みが図られ、おおむね順調な実績を上げることができました。

##### 【今後、充実を図るべき分野】

- 「個に応じて学力を伸ばす」分野は、基礎的な学力の定着に課題が見られます。「学習指導支援講師の配置」や「国語力向上の推進」等、学校の指導体制を支える人的体制の充実と、学力の定着・向上を図っていきます。また、教員の授業・指導の力を高めるような取組みを充実することも必要です。
- 「子どもたちが生涯を通じて学び成長し続ける」分野では、拠点となる社会教育施設の果たす役割に課題が見られます。学校への働きかけ・受入れを強化したり、協議会委員を公募して事業に市民の声を反映させたりする等、子ども向けの事業の充実を図っていきます。

## 施策 1

郷土に対する愛着と理解を深め、国際化に対応し、未来に目を向ける素養を育みます

めざす姿

なごや(郷土)が大好きで、なごや(郷土)をもっとよくしたいと思う気持ちが育まれ世界と未来に目を向けている

### ◆施策評価

目標への到達状況					
成果指標	22年度 (策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)
なごや(郷土)のことが好きな児童・生徒の割合	—	92% (暫定値)			85%
環境をよくしようとする取組みを継続的に行った学校の割合	—	65.7%			90%
施策への貢献度及び目標に対する評価					
<p>○郷土学習の資料を提供するホームページや、学校給食における「ふるさと献立」、博物館・美術館におけるわかりやすさを重視した展示等が、郷土に対する愛着と理解を深める上で貢献しています。このことが、なごや(郷土)のことが好きな児童生徒が高い割合を示していることに表れています。</p> <p>○英語・外国語活動アシスタントやAETの派遣、高校生の海外派遣事業は、いずれも事業ごとに設定した目標に向かって順調に成果が上がっており、国際化に対応した素養を育むことに貢献しています。</p> <p>○環境学習に関する事業については、節電・節水等身近で簡単にできることから実行したり、牛乳パックやペットボトルなどリサイクルできるものは集積場所へ持っていくようにしたりする等の行動目標を示す児童生徒が多くみられ、学んだことが環境を意識し行動するきっかけになっています。</p>					
今後の方向性					
<p>○郷土学習ホームページの内容更新、見学や調べ学習を促進するための事業等を通じて、郷土をよりよくしたいと考える子どもが増えるよう努めていきます。</p> <p>○小学校への英語・外国語活動アシスタントの派遣や中学校・高等学校へのAETの派遣を継続するとともに、海外派遣の体験で得たものを各校で広めていくことにより国際化に対応する素養を育てていきます。</p> <p>○環境ウィーク事業では、日常的に活動している具体例を示し、エコ・フレンドシップ事業では、事業の内容を工夫・充実し、体験活動の充実、共通テーマでの学習の新設を行う等、事業の実施期間以外にも環境をよくしようとする取組みを継続的に行うよう学校に働きかけていきます。</p>					

◆事業の実施状況(23年度)

事業名【所管】	郷土学習【指導室】				
23年度決算額	158千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
名古屋の歴史や自然、文化について 関心がある児童の割合	45.4% (21年度)	46%			50.0%
事業の実施状況					
○学習資料のホームページによる提供や内容の随時更新を行いました。					

事業名【所管】	給食で知る なごやの魅力【学校保健課】				
23年度決算額	一千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
「みんなで食べる！なごや産の日」 を知っている児童の割合	54.3% (21年度)	63.2%			80.0%
事業の実施状況					
○「みんなで食べる！なごや産の日」を14回実施したほか、新たに愛知県の特産物を取り入れた献立(とうがん汁)や、身近な郷土料理(みそおでん)等の特徴ある献立を「ふるさと献立」として位置づけました。					

事業名【所管】	博物館・美術館における常設展・企画展				
23年度決算額	14,876千円【博物館】 13,276千円【美術館】				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
常設展・企画展を見学した小・中・ 特別支援学校数の割合【博物館】	69.4% (21年度)	68.8%			75.0%
常設展入場者数【美術館】	92,902人 (21年度)	74,130人			100,000人 (24~26年度 平均)
常設展入場者の満足度【美術館】	80.9% (21年度)	80.0%			85.0%
事業の実施状況					
【博物館】 ○常設展の魅力向上を目指し、臨時休館の際に展示替えを行いました。その際に、あかり体験セットや鏡パズル等、体験用具を充実させました。また、小学生向けに目玉資料を設定し、解説文・解説資料を作成しました。					
【美術館】 ○常設展「名品コレクション展Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」として、所蔵するコレクションを魅力的に分かりやすく展示・紹介しました。					
○企画展として、「宮島達男展」「池水慶一展」「北川民次の芸術展」を開催しました。					

事業名【所管】	英語によるコミュニケーション能力の育成【指導室】				
23年度決算額	496,054千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
「ふだんの生活の中で、英語を使ってみたいと思う」と答えた児童の割合	55%	62%			70%
「6割程度以上の生徒にコミュニケーション能力の伸びが見られた」と把握している英語科教員の割合	80%	84%			90%
事業の実施状況					
<p>○小学校1～4年生を対象に、英語活動アシスタントを年間4時間、5・6年生を対象に平成22年度は年間20時間派遣していた外国語活動アシスタントを、平成23年度は年間35時間派遣し、学級担任とのチームティーチング(TT)を実施しました。</p> <p>○中学校・高等学校にAET95人を派遣し、英語科教員とのチームティーチング(TT)を年間28時間実施しました。</p>					

事業名【所管】	高校生の海外派遣事業【指導室】				
23年度決算額	10,112千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
派遣生徒の報告会により、国際理解に対する意識が高まった生徒の割合	75.8% (21年度)	78.0%			80.0%
事業の実施状況					
<p>○普通科等派遣団16名をシドニーへ16日間、商業・工業・総合学科派遣団10名をシンガポール・マレーシアへ12日間派遣しました。</p>					

事業名【所管】	海外演奏家等による音楽鑑賞【指導室】				
23年度決算額	2,902千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
演奏会実施校で音楽に対する興味・意欲を高めたと回答した児童生徒の割合	94.4%	98.0%			95.0%
事業の実施状況					
<p>○小学校2校・中学校2校の計4校の1,585名の児童生徒に対して、なごやっ子スクールコンサートを実施しました。</p>					

事業名【所管】	姉妹友好都市児童生徒書画展【指導室】				
23年度決算額	1,206千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
小・中学生の観覧者の外国の作品に対する関心の割合	40%	54%			50%
事業の実施状況					
○名古屋市博物館にて「姉妹・友好都市」であるロサンゼルス市・メキシコ市・南京市・シドニー市・トリノ市並びに中津川市・豊田市及び本市の児童生徒の作品(書写・絵画)を展示しました。					

事業名【所管】	環境学習ウィーク・トライ&アクション【指導室】				
23年度決算額	9,706千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
継続的な取り組みを行った学校の割合	—	65.7%			90%
事業の実施状況					
○各学校でごみの減量、ごみの再資源化、緑化活動等さまざまな活動を行いました。					

事業名【所管】	エコ・フレンドシップ事業【指導室】				
23年度決算額	2,853千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
環境保全への行動化 ※環境保全に対する具体的な行動目標等 を示せた者の人数の割合	—	87.7%			90%
事業の実施状況					
○環境未来探検隊には、小学校5年生から中学校3年生までの児童生徒127名が参加しました。「森」「海・水辺」「エネルギー」「里山」「生き物」「人・企業」の6つのコースに分かれ、体験活動や学習を行い、その結果を「子ども環境会議」で発表し、環境保全の取り組みについて話し合いました。					

## 施策2

基礎基本を着実に身に付け、個に応じて学力を伸ばすとともに、創造性あふれる心やチャレンジ精神を育みます

めざす姿

基礎基本を身に付け、主体的に学力を伸ばしていこうとしている

### ◆施策評価

目標への到達状況					
成果指標	22年度 (策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)
基礎的な学力が十分定着している児童生徒の割合	74.5% (21年度)	73.1%			78.0%
施策への貢献度及び目標に対する評価					
<p>○名古屋市が独自に取り組んでいる30人学級等の少人数教育により、一人ひとりの状態に応じたきめ細かな指導が実践されており、学習が遅れがちな児童生徒の学習状況、学習態度等の改善に効果が上がっています。</p> <p>○児童生徒の学習習慣の定着や、主体的に学力を伸ばしていこうとする態度の育成に各学校が取り組む上で、基礎学習講座・発展学習講座講師の派遣は、現場教員の大きな支援になっています。また学力向上サポート事業は、学校の創意工夫を喚起するとともに、先進的な取り組みを展開・普及する上で貢献しています。</p> <p>○成果指標である「基礎的な学力が十分定着している児童生徒の割合」は、平成21年度74.5%に対し、計画前年度の平成22年度には72.1%まで下降しましたが、平成23年度には73.1%と下降傾向に歯止めをかける結果となりました。</p> <p>○「魅力ある高等学校づくり推進研究協議会」での協議を通して、各学校に応じた学力の伸長やキャリア教育等を進めるために、社会の変化や生徒・保護者のニーズに対応した市立高校のあり方について検討をしました。</p>					
今後の方向性					
<p>○小学校1・2年生の30人学級を継続するとともに、基礎的な学習から発展的な学習まで幅広く、児童生徒に対する学習指導を支援する観点から、新たに学習指導支援講師を派遣します。また、学力向上サポート事業では、基礎的な学力向上を図るため、国語力向上等を課題として示し、その取り組みを支援するとともに、実施校における成果を波及・展開させ本市全体の基礎学力の定着を目指します。</p> <p>○「魅力ある高等学校づくり推進研究協議会」のまとめやシンポジウムでの生徒・保護者・市民等からの意見を踏まえ「基本計画」を策定します。</p>					

◆事業の実施状況(23年度)

事業名【所管】	基礎学習・発展学習【指導室】				
23年度決算額	137,951千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
基礎的な学力が十分定着している児童生徒の割合	74.5% (21年度)	73.1%			78.0%
事業の実施状況					
<p>○基礎基本の定着を図る基礎学習講座講師を前・後期延べ148名配置しました。</p> <p>○希望する児童生徒の興味関心に応じた発展的・補足的指導を行う発展学習講座を16校で実施しました。</p>					

事業名【所管】	少人数教育【指導室・教職員課】				
23年度決算額	640,143千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
学習状況、学習態度等に関する学校アンケート(5段階評価)の平均値	4.31 (21年度)	4.49			4.50
事業の実施状況					
<p>○市費30人学級非常勤講師等を配置し、一つの学級を少人数集団に分けて指導しました。</p> <p>○少人数指導授業等について、具体的な指導方法の工夫改善や計画作成に関して各学校に対する指導・助言を行いました。</p>					

事業名【所管】	学力向上サポート事業【指導室】				
23年度決算額	68,769千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
基礎的な学力が十分定着している児童生徒の割合	74.5% (21年度)	73.1%			78.0%
事業の実施状況					
<p>○創意工夫を生かした積極的な教科指導の研究や教育活動を展開する学校(18校)の支援を行いました。</p>					

事業名【所管】	国語力向上推進事業【指導室・図書館】				
23年度決算額	5,770千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
国語の基礎的な学力が十分定着している児童の割合	73.9% (21年度)	69.2%			78.6%
事業の実施状況					
<p>○「漢字カアッププリント」(小学生4・5・6年用)を市立小学校に配信しました。</p> <p>○「なごやっ子読書ノート」を作成し、市立小学校及び特別支援学校(小学部)の全児童へ配布しました。</p>					

事業名【所管】	幼稚園教育指針に基づく市立幼稚園づくり【指導室】				
23年度決算額	一千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
園の指導や教育活動に満足している保護者の割合	86.0% (21年度)	87.6%			90.0%
事業の実施状況					
○文化的体験(芸術鑑賞)、自然体験、社会体験、子育て支援事業を推進しました。 ○市立幼稚園の預かり保育を5園に拡充しました。					

事業名【所管】	幼稚園教育のあり方の研究【指導室】				
23年度決算額	一千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
国の動向をふまえて研究	国の動向を ふまえて研究	国の動向を ふまえて 研究			国の動向を ふまえて 研究
事業の実施状況					
○「子ども・子育て新システムに関する指定都市市長会・指定都市部担当者との意見交換会」に参加し、最新の情報収集に努めました。					

事業名【所管】	特色ある市立高等学校づくり【指導室】				
23年度決算額	764千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
学校生活が充実していると思う高校生の割合	70.4% (21年度)	71.0%			75.0%
事業の実施状況					
○学識経験者・保護者代表を交えて「魅力ある高等学校づくり推進研究協議会」を6回開催しました。 ○理科・数学による新学習指導要領の先行実施によって、理科・数学の充実を図りました。 ○大学・企業との連携の充実を通して、企業の先進的な技術の習得や大学教授を招いた授業等の先進的な取組みを学校に取入れました。					

### 施策3

人権を大切にし、お互いを認め合う心と、社会の一員として生きるための規範意識や自覚を育みます

めざす姿

互いに個性と尊さを認め合い、社会の一員としての自覚を身に付けている

#### ◆施策評価

目標への到達状況					
成果指標	22年度 (策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)
学校生活において友達を思いやる気持ちを持つことができる子どもの割合	80.9% (21年度)	81.5%			86.0%
施策への貢献度及び目標に対する評価					
<p>○教員の研修では、子どもたちへの人権教育を行う上で必要な知的理解と人権感覚を身に付けさせることができました。</p> <p>○教育祭は、児童生徒が協力して一つの演奏や展示物を創り上げたり、演奏・作品を鑑賞しあったりすることを通じて、互いの存在を認め合うよい機会となりました。また、ふれあいフレンドの派遣では、ボランティアの大学生が、児童の人間関係を広げたり、他人への思いやりの心を持たせたりする場面で活躍しました。</p> <p>○小学校において実施した社会見学や会社の訪問で、働く人の話を聞くこと等を通じて、望ましい勤労観について学ぶとともに、中学校・高等学校において、職場体験・インターンシップを体験し、望ましい勤労観・職業観を身に付けることにより、社会の一員としての自分を意識する機会としました。</p>					
今後の方向性					
<p>○教職員の人権に関する知的理解及び人権感覚の向上を図るため、人権教育研修を継続・充実して実施します。</p> <p>○展覧会や音楽会の継続的な実施やふれあいフレンドの継続的な派遣等により、子どもたちが互いの個性や尊さを認め合う心を育てるよう努めていきます。</p> <p>○新たにIT企業の職場紹介を行う等、中学校・高等学校における職場体験・インターンシップ実施校の拡大することにより、社会の一員としての自覚を身に付けることができるようさらに努めていきます。</p>					

◆事業の実施状況(23年度)

事業名【所管】	人権教育【人権教育室・指導室・生涯学習課・教育センター】				
23年度決算額	22,202千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
学校教育での実施	全校で実施	全校で実施			全校で実施
社会教育施設での実施	各施設で実施	各施設で実施			各施設で実施
教員向け人権研修の受講者による理解度・満足度の効果測定値平均(4点満点)	3.6 (21年度)	3.5			3.6以上
事業の実施状況					
<p>○学校教育の場において、あらゆる差別や偏見をなくし、いのちの大切さや個性を尊重し、認め合う心を育てる等の人権教育を実施しました。社会教育においては文化センター、生涯学習センター等で主催講座・事業として実施しました。</p> <p>○初任者から校(園)長まで、経験年数や職務に応じて1,907名を対象に人権研修を実施しました。</p>					

事業名【所管】	夢・チャレンジ支援事業【指導室】				
23年度決算額	9,570千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
実施校において事業に満足した生徒の割合	—	84%			80%
事業の実施状況					
<p>○中学校・特別支援学校からは21校応募があり、14校で実施し、高等学校では、4件の応募があり、2件を実施しました。中学校・特別支援学校では学区の保育園や小学校の子どもたちと一緒にコスモスを育てたり花摘み会を実施したり、高等学校では専門学科の学校による日頃の学習や部活動の成果発表をする等、それぞれの学校で生徒会が主体となり主体的な活動が行われました。</p>					

事業名【所管】	教育祭開催の支援【指導室】				
23年度決算額	787千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
事業に「満足した」(「やや満足した」は除く)園児・児童・生徒・参観者の割合	50%	57.3%			60%
事業の実施状況					
<p>○音楽の発表会については、小・中学校は中京大学文化市民会館で、高等学校はアートピアホールでそれぞれ開催しました。</p> <p>○子どもの作品を展示する展覧会については、小・中学校は各学校で、幼稚園は博物館で、高等学校では市民ギャラリーでそれぞれ実施しました。</p>					

事業名【所管】	ふれあいフレンドの派遣【指導室】				
23年度決算額	13,814千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
実施校数	80校 (21年度)	84校			90校
事業の実施状況					
OH23.5.16～H24.3.16を派遣期間とし、大学生がボランティアとして小学校の休み時間や授業時間・部活動で児童と一緒に活動したり、教員の指導補助をしたりしました。					

事業名【所管】	キャリア教育【指導室】				
23年度決算額	一千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
小学校 会社訪問・社会見学実施校の割合	93.5% (21年度)	98.5%			95.0%
中学校・高等学校 職場体験・インターンシップ実施校の割合	86.4% (21年度)	91.1%			90.0%
事業の実施状況					
○教育課程研究集会等での事例の紹介や職場体験の事業所の紹介を行いました。					

事業名【所管】	情報モラル教育【教育センター・指導室】				
23年度決算額	3,274千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
情報モラル学習サイトの運営	サイトの 運営	サイト の充実			サイトの 充実
情報モラル教育の実施	実施	実施			実施
事業の実施状況					
○情報モラル体験コンテンツ2種を新規開発しました。 ○既存のコンテンツ2種を改善しました。 ○教員対象のすべてのコンピュータ研修において、情報モラル体験コンテンツを取上げ、情報教育モラル教育を推進しました。					

事業名【所管】	交通安全教育【指導室】				
23年度決算額	11,960千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
小学校における参加・体験型の交通安全指導実施校数	257校	258校			全校
事業の実施状況					
<p>○交通安全に対する意識向上について継続的に啓発を行いました。</p> <p>○参加・体験型の交通安全指導に必要な備品のほか、各校の希望や実情に応じて、ヘルメット(692個)・自転車(369台)等を配当しました。</p> <p>○黄色い帽子を小学1年生に配布しました。</p>					

事業名【所管】	幼稚園心の教育推進プラン子育て支援事業【指導室】				
23年度決算額	5,567千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
園の子育て支援事業に満足している保護者の割合	74.3% (21年度)	74.8%			80.0%
事業の実施状況					
<p>○園舎・園庭開放、未就園児遊びの会、子育て相談等の子育て支援事業を実施しました。</p> <p>○市立幼稚園の預かり保育を5園に拡充しました。</p>					

#### 施策 4

望ましい生活習慣を身に付けるとともに、生涯にわたって健康に過ごすための心身を育みます

めざす姿

望ましい生活習慣が定着し、健やかな体が育まれている

#### ◆施策評価

目標への到達状況					
成果指標	22年度 (策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)
子どもの体力・運動能力における 平均値 (全国値を100とした指標)	97.1 (21年度)	95.8 (22年度)			100
施策への貢献度及び目標に対する評価					
<p>○子どもの体力・運動能力における平均値が上昇傾向にないことを受け、子どもたちが身体を動かす楽しさ、喜びを感じることができるよう、子どもに人気のダンス的な要素を取入れた「スクールダンスサイズ」を作成しました。23年度は半数以上の小学校で実践され、運動の動機付けを図ることができました。</p> <p>○朝食摂取率の上昇等、望ましい生活習慣の定着と体力の向上の啓発を図るため、保護者向けに体力と生活習慣の相関を示した「元気いっぱいなごやっ子通信」や、児童自身が自分の生活リズムを記入する「元気いっぱいなごやっ子カード」を新たに作成しました。</p> <p>○中学校における部活動では、指導体制が充実するよう「外部指導者」等を活用することにより、中学生の部活動参加率が高まり、子どもの豊かな心と健やかな体の育成に貢献しました。</p>					
今後の方向性					
<p>○スクールダンスサイズの一層の普及促進を図るため、より多くの学校での普及を図るための指導事例集を作成するほか、地域やささまざまな場でも取組めるよう紹介することにより、体力の向上を目指します。</p> <p>○子どもが望ましい生活習慣を身に付けるには、家庭との連携が不可欠であることから、「元気いっぱいなごやっ子通信」、「元気いっぱいなごやっ子カード」等を活用し、より多くの児童生徒・保護者に望ましい生活習慣や健康によい生活の仕方に関心を持たせる意識啓発を図り、学校・家庭との連携を一層図った事業展開を進めていきます。</p>					

◆事業の実施状況(23年度)

事業名【所管】	なごやっ子の体カアップ推進事業【学校保健課】				
23年度決算額	5,742千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
体力・運動能力調査における50m走・立ち幅とび・ボール投げなどの記録を全国平均を100として換算	97.1 (21年度)	95.8 (22年度)			全国平均 100
事業の実施状況					
<p>○体力アップ推進校を10校委嘱し、実践事例を全校に紹介しました。</p> <p>○スクールダンスサイズを新たに作成し、講習会等を開催するとともに、パンフレット、DVD、音楽CDを全小学校に配付しました。</p>					

事業名【所管】	望ましい生活習慣の育成【学校保健課】				
23年度決算額	2,520千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
朝食の摂取率	小学5年生 88.5% 中学2年生 80.3% (21年度)	東日本大震災のため23年度調査は実施されず			全国平均
事業の実施状況					
<p>○望ましい生活習慣を啓発し、実践させるため、「元気いっぱいなごやっ子通信」(小3・中1)や、「元気いっぱいなごやっ子カード」(小3)を作成しました。</p>					

事業名【所管】	部活動の振興【スポーツ振興課・生涯学習課】				
23年度決算額	248,155千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
中学生部活動参加率	72.4%	74.6%			75.0%
事業の実施状況					
<p>○学校部活動の振興を図るため、①外部指導者の派遣(371部)、②部活動顧問の派遣(対象：中学校49人)、③わいわいワクワクアカデミー(運動8種目・文化2種目)を実施しました。</p>					

事業名【所管】	地域ジュニアスポーツクラブの設立支援【スポーツ振興課】				
23年度決算額	860千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
設立済学区数	138 小学校区 (21年度)	147 小学校区			188 小学校区
事業の実施状況					
<p>○地域における土・日曜日の子どものためのスポーツ活動を推進するため、地域が主体的に運営する地域ジュニアスポーツクラブの設立を支援しました。</p>					

施策5

夢や目標の実現のために、生涯にわたり、あらゆる機会と場所で学び続ける意欲と習慣を育みます

めざす姿	未来への夢を抱き、生涯を通じて学び成長し続ける機会や場所が提供されている
------	--------------------------------------

◆施策評価

目標への到達状況					
成果指標	22年度 (策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)
博物館・美術館・科学館における子ども向け事業の参加者数	112,389人 (21年度)	98,151人			126,000人
施策への貢献度及び目標に対する評価					
<p>○博物館・美術館・科学館において子ども向けにさまざまな参加体験型の事業を開催し、子どもたちが個々の興味・関心に応じて自ら学ぶことができる機会と場を提供しました。平成23年度、成果指標となっている子ども向け事業の参加者数は減少しましたが、美術館においては、中学校美術部の鑑賞校数や学校団体受入れ校数等が増加し、科学館においては、子ども(中学生以下)の入館者数が大幅に増加している点においては、施策に貢献したと考えています。</p> <p>○学芸員が学校へ出向く出前授業等さまざまな事業を開催する学校教育との連携事業は、参加者から高い満足度を得ており、学校での学びをさらに深め、なごやっ子の知的好奇心や考える力を育む場を提供しています。</p> <p>○市内の小学生を子ども図書館大使として任命し、また、保健所での読み聞かせを拡充する等様々な取組みを行い、子どもたちが自ら進んで読書に親しめるような機会の提供に貢献しました。</p>					
今後の方向性					
<p>○博物館・美術館・科学館において、学校教育との連携をさらに深め、子どもの多様な知的探究心を刺激し、生涯を通じて学び続ける意欲と習慣を育む子ども向け事業を企画・展開することによって、子ども向け事業の参加者数を増加させます。</p> <p>○子ども図書館大使事業を鶴舞中央図書館からすべての分館に拡充するとともに、図書館による学校における子ども読書活動の支援の充実を図り、学校図書館との連携を深めていきます。</p>					

◆事業の実施状況(23年度)

事業名【所管】	トライアルサタデー講座【生涯学習課】				
23年度決算額	2,035千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
講座について「大変満足」と回答した人の割合	83.7% (21年度)	71.0%			85.0%
事業の実施状況					
○各生涯学習センターにおいて、各区の特色を生かした小中学生向け講座を実施しました。					

事業名【所管】	子ども読書活動【生涯学習課・図書館・指導室】				
23年度決算額	2,345千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
1ヵ月間に1冊も本を読まなかった児童生徒の割合	小学校 3.7% 中学校 23.3% 高校 64.9% (18年度)	小学校 12.2% 中学校 19.4% 高校 65.9%			小学校 0.0% 中学校 18.3% 高校 59.9% (23年度)
「第2次子ども読書活動推進計画」	(24年度 策定)	(24年度 策定)			展開
事業の実施状況					
○保健所の乳幼児健診時に絵本の紹介や読み聞かせを359回(18,224人)行いました。 ○乳幼児・児童・保護者等を対象に、おはなし会等を1,878回実施しました。 ○なごやっ子読書週間記念イベント「なごやっ子読書フェスティバル2011」を開催しました。 ○市内16名の小学生を「子ども図書館大使」に任命しました。 ○学校図書館との連携のあり方について検討を行いました。					

事業名【所管】	博物館・美術館・科学館における子ども向け教育普及事業				
23年度決算額	1,314千円【博物館】	1,090千円【美術館】	2,204千円【科学館】		
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
参加者数【博物館】	40,878人 (21年度)	39,323人			43,000人
夏期休業中の子どもの鑑賞者数【美術館】	—	2,575人			5,000人
中学校美術部の鑑賞校数【美術館】	—	27校			8校
子ども向け普及事業参加者数【美術館】	7,087人 (21年度)	1,845人			8,000人
学校団体受入れ校数【美術館】	58校 (21年度)	83校			60校
キッズアワー観覧者【科学館】	64,424人 (21年度)	56,983人			70,000人
科学館にまた来たいと思う子ども(中学生以下)の割合【科学館】	—	97% (暫定値)			90%
子ども(中学生以下)の入館者数【科学館】	347,807人 (21年度)	483,659人			570,000人
事業の実施状況					
<p>【博物館】</p> <p>○「歴史体験セミナー」「はくぶつかんのなつまつり」「くらし体験学習室」等の参加体験型事業を実施しました。</p> <p>○職場体験・職場訪問の受入れを実施しました。</p> <p>【美術館】</p> <p>○夏期休業中に中学校美術部の鑑賞者を受入れ、解説をしました。</p> <p>○「キッズの日」「夏休みこどもの美術館」等学校休業日における子ども向けプログラムを実施しました。</p> <p>○小・中・高等学校と連携して学校団体を受入れました。</p> <p>【科学館】</p> <p>○平成23年度の総入館者数は1,531,854名でした。</p> <p>○子どもにも分かりやすく解説する家族で楽しめるプラネタリウムプログラム「キッズアワー」を166回投影しました。平成23年3月19日に新館を開館し、3～9月まで開館特別番組を投影しました。</p> <p>○参加体験型の多様な展示品を備えるほか、サイエンスショー等を実施しました。</p>					

事業名【所管】	博物館・美術館・科学館における学校教育との連携強化				
23年度決算額	183千円【博物館】	一千円【美術館】	7,209千円【科学館】		
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
参加者のうち事業に満足した人の割合【博物館】	—	91.0%			80%
鑑賞教育研修参加者数【美術館】	—	65人			60人
アートカード貸出件数【美術館】	85件 (21年度)	67件			100件
出前アート体験校数【美術館】	8校 (21年度)	8校			10校
出前ものづくり工房校数【科学館】	16校 (21年度)	28校			32校
科学の祭典参加チーム数【科学館】	—	32チーム			25チーム
事業の実施状況					
<p>【博物館】</p> <p>○常設展において、子どもが興味を持って見学できるよう15点の資料を選定し、分かりやすい解説を付けました。また、鏡パズル等、体験要素を充実させました。</p> <p>○学芸員が小・中学校で行う出前授業「出前歴史セミナー」を実施しました。</p> <p>○小中学生向け観覧ガイドを作成しました。</p> <p>○小学校3年生の授業に対応した「くらしのうつりかわり」「くらし体験学習室」を実施しました。</p> <p>【美術館】</p> <p>○教師のための「鑑賞教育研修会」を開催しました。</p> <p>○アートカードを貸し出して、学校における美術鑑賞の授業等を支援しました。</p> <p>○学芸員とボランティアが学校へ出向いて、美術鑑賞の楽しさを伝える出前授業を実施しました。</p> <p>【科学館】</p> <p>○職員とボランティアが小学校に出向いて、工作指導を行いました。</p> <p>○科学の祭典を行い、テーマごとに、実験工作ブース(おもしろ工房18ブースを始め50ブース)を設け、工作や実験、実演を行いました。(参加者数：6,265人)</p>					

## (2) 教育環境の整備と、教員の意欲・資質の向上

特別支援教育の充実、いじめ・不登校などへの対応、安心・安全で快適な教育環境整備のための改築・改修、教員研修の充実などにより、教育環境の整備と、教員の意欲・資質の向上を目指します。

**施策 6** 誰もが楽しく通うことのできる学校づくりを進めます

- 1 特別支援教育
- 2 いじめ・不登校対策
- 3 多文化共生
- 4 小規模校対策

**施策 7** 快適に学ぶことのできる学校づくりを進めます

**施策 8** 地域に開かれ、信頼される学校づくりを進めます

**施策 9** 豊かな人間性と確かな指導力を持った教員を確保し、養成します

**施策 10** 子どもと向き合う時間を確保し、教育活動の充実を図ります

### 施策の基本的方向における評価の総括

#### 【おおむね順調な分野】

- 教育環境の整備のうち、支援を要する児童生徒に対する分野では、発達障害、日本語指導が必要な児童生徒について、取組みの強化を図りました。地域に開かれた学校づくりの分野は、おおむね順調に取り組んでいます。
- 教員の意欲・資質の向上に関しては、すぐれた教員の確保と養成、教員が子どもと向き合う時間の確保等に、着実に取り組めました。

#### 【今後、充実を図るべき分野】

- 不登校対策については、不登校児童生徒数や学校復帰率といった成果に課題が残る結果となっています。「不登校対応支援講師の配置」を拡充するとともに、不登校対策の充実に向けた基本構想を策定し、新たな取組みの具体化を図っていきます。
- 施設整備の分野では、成果が計画をやや下回る傾向にあり、財政状況が厳しい中で、必要な事業量を確保することが課題となっています。また、「リニューアル改修にかかる調査・設計」等、新たな老朽化対策についても検討を進めていきます。

## 施策6

誰もが楽しく通うことのできる学校づくりを進めます

### 6-1 特別支援教育

めざす姿	適切なサポートやよりよい教育環境の提供により、誰もが安心して楽しく学校生活が送れている
------	---

#### ◆施策評価

目標への到達状況					
成果指標	22年度 (策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)
社会的自立をするために必要な力を身につけている障害児の割合	58.5% (21年度)	58.9%			63.0%
施策への貢献度及び目標に対する評価					
○発達障害対応支援講師の派遣校を拡大するとともに、発達障害対応支援員の派遣や守山養護学校への産業科の設置といった新たな事業にも取り組んだことにより、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援と、児童生徒の社会的自立に必要な力の育成に大きく貢献することができました。					
今後の方向性					
○学校や児童生徒、保護者のニーズは依然として大きいことから、発達障害対応支援員の増員等、施策の充実を図っていきます。					
○特別支援学校高等部への入学希望者が年々増加していることから、施設の狭あい化が課題となっています。今後も、入学を希望する生徒の受け入れができるよう、教育環境の整備を図っていきます。					

◆事業の実施状況(23年度)

事業名【所管】	特別支援学級の設置【指導室】				
23年度決算額	38,245千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
	設置	設置			設置
事業の実施状況					
〇23年度は小学校349学級、中学校138学級に設置しました。					

事業名【所管】	特別支援学校高等部における就労支援【指導室】				
23年度決算額	6,021千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
守山養護学校産業科の一般就労率	—	—			100%
事業の実施状況					
〇職場実習や就労先の開拓・確保のための就労支援コーディネーター1人と専門性の高い職業教育を行うための職業指導講師3人を派遣しました。					

事業名【所管】	特別支援教育のための専門家チームの派遣【指導室】				
23年度決算額	3,620千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
専門家チーム派遣による支援に対する学校の満足度	85% (21年度)	94.2%			100%
事業の実施状況					
〇派遣を希望する127校(園)すべてに、教育・医療・療育機関の専門家で構成する専門家チームを派遣しました。					

事業名【所管】	特別支援教育の教員研修・教育相談・就学相談【教育センター】				
23年度決算額	135千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
受講者による理解度・満足度の効果測定値平均	3.5 (21年度)	3.6			3.5以上
現職教育・相談等への所員派遣の実施	50回	61回			60回
事業の実施状況					
〇特別支援教育に関する研修の充実を図りました。					
〇学校からの要請すべてに応じ、指導主事を派遣しました。					

事業名【所管】	発達障害対応支援講師の派遣【指導室】				
23年度決算額	89,274千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
希望校への発達障害対応支援講師の派遣率	7.5% (21年度)	21.0%			50.0%
事業の実施状況					
○48校の小・中学校に発達障害対応支援講師を派遣しました。					

事業名【所管】	発達障害対応支援員の派遣【指導室】				
23年度決算額	14,681千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
支援員派遣による学校の満足度	—	94.4%			100%
希望校への支援員派遣率	—	17.6%			100%
事業の実施状況					
○16校(園)の幼稚園・小・中学校に発達障害対応支援員を派遣しました。					

事業名【所管】	発達障害のある児童生徒への支援【教育センター】				
23年度決算額	15,847千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
通常の学級における子どもの「発達検査及び相談」の回数	210回	281回			280回
事業の実施状況					
○児童生徒の発達検査等を実施しました。 ○学校や保護者からの発達検査及び相談の要望に100%対応しました。					

事業名【所管】	学校生活介助アシスタントの派遣【指導室】				
23年度決算額	48,813千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
アシスタント派遣による学校・保護者の満足度	90% (21年度)	99%			100%
希望校へのアシスタント派遣率	81% (21年度)	80%			100%
事業の実施状況					
○年間を通して保護者等が付添いや介助を行っている障害のある幼児児童生徒112名に対して、学校生活介助アシスタントを派遣しました。					

## 施策6 誰もが楽しく通うことのできる学校づくりを進めます

### 6-2 いじめ・不登校

めざす姿	適切なサポートやよりよい教育環境の提供により、誰もが安心して楽しく学校生活が送れている
------	---

#### ◆施策評価

目標への到達状況					
成果指標	22年度 (策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)
児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数	10.6人 (21年度)	11.1人			9.8人
施策への貢献度及び目標に対する評価					
<p>○不登校支援対策については、ハートフレンドなごやにおける相談事業、学校での取組みを支援する不登校対応支援講師やスクールカウンセラー、子ども適応相談センターにおける適応指導やスクールソーシャルワーカーの活用等、個々の児童生徒に応じて行う支援を総合的に実施しました。さらに、旧六反小学校の校地及び校舎を活用して不登校対応の私立中学校を誘致する等先進的な取組みも行い、不登校児童生徒の学校復帰を促進することができました。</p> <p>○児童生徒 1,000 人当たりの不登校児童生徒数、不登校児童生徒の学校復帰率は 11.1 人及び 35.4%と、全国平均である 11.3 人及び 31.2%と比較すると、本市の取組みの効果が表れています。</p> <p>○いじめ対策については、地域と連携して取り組んでいるいじめ・問題行動等防止対策事業が、いじめを相談しやすい環境づくりに効果を上げており、楽しく通うことのできる学校づくりに寄与しています。</p>					
今後の方向性					
<p>○全国に比べ不登校児童生徒の発生率・復帰率はともによい数値となっているが、本市における前年度の数値を比較すると、児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数は増加、不登校児童生徒の学校復帰率は低下しており、不登校対策には更なる充実が求められます。</p> <p>○24年度は不登校対策の充実に向け、短期的・中長期的な施策等に関する基本構想を策定し、子ども適応相談センターへの通所率が低い本市南部方面への対応を検討するとともに、学校や関係機関との連携をとりながら、一人ひとりの状況に応じた対応等の検討を進め、安心して学校に通うことができる子どもが一人でも増えるよう、不登校児童生徒の学校復帰のサポートに努めていきます。</p> <p>○いじめについては、事態が深刻化する前に、早期発見や早期対応により解決することが重要であり、地域との連携や相談事業等、取組みの充実を努めていきます。</p>					

◆事業の実施状況(23年度)

事業名【所管】	不登校対応支援講師等の配置【指導室】				
23年度決算額	283,447千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
不登校児童生徒の学校復帰率	36.4% (21年度)	35.4%			38.0%
事業の実施状況					
<p>○H23.4.11～H24.3.9の期間内に市内小中学校29校に対し、不登校児童生徒対応時の代替講師として配置しました。</p> <p>○スクールカウンセラーを名古屋市立の全中学校・高等学校に配置しました。</p>					

事業名【所管】	子ども適応相談センターでの不登校対応事業【指導室・子ども適応相談センター】				
23年度決算額	74,256千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
センターに通所する不登校児童生徒の学校復帰率	44.3% (21年度)	39.7%			50.0%
事業の実施状況					
<p>○心理的理由により登校できない児童生徒及びその保護者に対して個人面接をするとともに同世代との交流を促進する適応指導を実施しました。</p> <p>○遠くて通所できない児童生徒及びその保護者のために、生涯学習センター(市内6区)において巡回教育相談(年3回)を実施しました。</p>					

事業名【所管】	ハートフレンドなごやでの相談事業【教育センター】				
23年度決算額	50,353千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
電話・メール相談	4,700回	5,058回			5,000回
来所相談	5,000回	3,609回			5,300回
訪問相談	1,900回 (いずれも19～ 21年度平均)	1,865回			1,900回
事業の実施状況					
○子どもの養育・教育上のあらゆる問題の総合相談窓口として相談活動を実施しました。					

事業名【所管】	スクールソーシャルワーカー活用事業(訪問相談)【教育センター】				
23年度決算額	51,729千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
訪問相談を受けた不登校児童生徒の学校復帰率	50% (19~21年度平均)	53.8%			55%
事業の実施状況					
○不登校児童生徒の訪問相談に100%対応しました。					

事業名【所管】	幼小・小中連携の取組み【指導室】				
23年度決算額	一千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
小1における不登校者の割合	0.03% (19~21年度平均)	0.029%			0.02%
中1における不登校者の割合	0.58% (19~21年度平均)	0.65%			0.48%
事業の実施状況					
○全ての小学校で幼保小連絡会等を行い、連携を図りました。					
○全ての中学校で小中連絡会を行い、児童生徒の情報交換を行いました。					

事業名【所管】	旧六反小学校を活用した不登校対応の私立中学校の誘致【指導室】				
23年度決算額	一千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
	実施	実施			実施
事業の実施状況					
○旧六反小学校の校地及び校舎を活用し、不登校問題を抱える子どもが通い、学ぶことのできる新たな選択肢の一つとして、不登校対応の私立中学校を誘致し、平成24年4月に開校しました。					

事業名【所管】	いじめ・問題行動等防止対策事業【指導室】				
23年度決算額	22,328千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
いじめられたりいじめを見たりしたとき、先生や、親、友達に相談することができる子どもの割合	72.4%	78.3%			84.0%
事業の実施状況					
○中学校ブロック単位でいじめ・問題行動等防止対策連絡会議を設置し、情報交換や巡回指導等を実施しました。					
○いつでも相談できる状態をつくるため、幼稚園、小・中・高等学校の全幼児児童生徒に相談機関を明記したカード「あったかハート」を配布しました。					

## 施策6

誰もが楽しく通うことのできる学校づくりを進めます

### 6-3 多文化共生

めざす姿	適切なサポートやよりよい教育環境の提供により、誰もが安心して楽しく学校生活を送れている
------	---

#### ◆施策評価

目標への到達状況					
成果指標	22年度 (策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)
日本語指導が必要な児童生徒のうち、「日本の学校になじむことができた」と感じている児童生徒の割合	86%	88.4%			90%
施策への貢献度及び目標に対する評価					
○母国学習協力員の配置を拡大するとともに、初期日本語集中教室や日本語通級指導教室の開設等新たな事業も実施し、日本語指導の必要な児童生徒の支援に力を入れた結果、「日本の学校になじむことができた」と感じている児童生徒の割合を高めることができました。					
今後の方向性					
○外国人の子どもの就学に関する現状把握に努め、就学の支援策を検討するとともに、学校生活への適応を一層進める観点から、母語学習協力員の増員や初期日本語集中教室等の拡充を進めていきます。					

◆事業の実施状況(23年度)

事業名【所管】	日本語指導が必要な児童生徒への支援【指導室】				
23年度決算額	141,283千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
日本語指導が必要な児童生徒のうち、「日本の学校になじむことができた」と感じている児童生徒の割合	86%	88.4%			90%
事業の実施状況					
<p>○日本語教育が必要な児童生徒が多数在籍する小・中学校に、日本語指導講師、母語学習協力員を配置しました。</p> <p>○日本語教育相談センター(教育相談室「こんにちは なごや」の改組)を開設して就学相談などを実施するとともに、「初期日本語集中教室」を1カ所、「日本語通級指導教室」を3カ所開設しました。</p> <p>○「栄日本語指導教室」で、土日に日本語や教科学習の指導を実施しました。</p>					

事業名【所管】	帰国児童生徒教育【指導室】				
23年度決算額	4,315千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
帰国後、安心して学校生活を送れていると思う児童生徒の割合	80% (21年度)	88.6%			90%
事業の実施状況					
<p>○笹島小・中学校を帰国児童生徒教育推進校に指定し、両校に帰国児童生徒教育推進校非常勤講師を、笹島小学校に帰国児童生徒教育推進校外国人ボランティアを配置しました。</p> <p>○帰国児童生徒教育研究協力校で、帰国児童生徒の実態を確認したり適応指導の工夫を行ったりしました。</p>					

事業名【所管】	外国語版小学校就学案内等による就学支援【学事課】				
23年度決算額	一千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
	実施	実施			実施
事業の実施状況					
<p>○外国人児童の保護者に対して、外国語版の「入学のご案内」を作成しました。</p> <p>○市立小・中学校における就学援助の案内について外国語版を作成しました。 (対応言語：中国語、ポルトガル語、スペイン語、英語、フィリピン語、ハングル)</p>					

## 施策6

誰もが楽しく通うことのできる学校づくりを進めます

### 6-4 小規模校対策

めざす姿	適切なサポートやよりよい教育環境の提供により、誰もが安心して楽しく学校生活を送れている
------	---

#### ◆施策評価

施策への貢献度及び目標に対する評価
<p>○小規模校対策は、全学年でクラス替えが可能な望ましい学校規模を確保することにより、児童・生徒が多様なものの見方や考え方に触れ、お互いに学び合い切磋琢磨できる、より良い教育環境を提供することに寄与することになります。</p> <p>○優先順位の高い対象校(6学年すべてで単学級の状況が継続する見込みの9校)のうち、3校において、当該3校の統合へ向けた合同の検討組織を設置し、協議を開始したことは、小規模校対策を進める上で大きな前進となりました。</p> <p>○他の対象校においては、保護者や地域住民への説明等により、小規模校対策についておおむね一定の理解は得られ、小規模校対策への取組みが着実に進みました。</p>
今後の方向性
<p>○合同の検討組織を設置した3校において、統合の合意形成を図ったのち、3校合同の統合準備会を設置して、円滑に統合が進むよう話し合い、具体的な準備を進めていきます。</p> <p>○小規模校対策推進のためには、学校・家庭・地域の連携・協力が不可欠であることから、保護者や地域住民から一層の理解を得て、より多くの検討組織の設置ができるよう働きかけていきます。</p>

◆事業の実施状況(23年度)

事業名【所管】	小規模校対策【施設計画室】				
23年度決算額	330千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
	計画策定前の対策実施校 ほのか小(3校統合) 笹島小(2校統合)	合同検討組織設置 (3校) 検討組織設置 (1校)			6学年全てで単学級の 状況が継続する見込み の9校について、 対策実施 (28年度)
事業の実施状況					
<p>○計画の対象校(44校)及び統合の相手校(3校)について、各学校の状況に応じ、24年度入学予定児童の保護者への説明会や、PTAや地域住民に対する説明を実施する等、小規模校対策への理解を得るための取組みを進めました。</p> <p>○幅下・江西・那古野小学校では、保護者、地域住民等からなる3校合同の検討組織を設置し、統合に向けた協議を開始しました。</p> <p>○豊臣小学校では、検討組織を設置し、協議を開始しました。</p>					

施策7 快適に学ぶことのできる学校づくりを進めます

めざす姿	計画的な維持更新によって、子どもたちに安心・安全で快適な教育環境が提供されている
------	--

◆施策評価

目標への到達状況					
成果指標	22年度 (策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)
大規模改造事業(第4次計画)の実施	4万8千㎡ 施工完了 (22年度)	9万㎡ 施工完了			40万㎡ 施工完了
施策への貢献度及び目標に対する評価					
<p>○大規模改造事業第4次計画では、主に昭和55年以前に建設され老朽化の進んだ校舎に対し、内装・外壁・屋上防水を一体的に改修する大規模改造事業を行うことにより、より多くの児童生徒が安心して快適に学ぶ環境の提供を目指しているが、厳しい財政状況の中にあって予算の確保が難しく、実施ペースが低下しています。</p> <p>○おおよそ築40年を経過した校舎に対して、構造体の耐久性調査により校舎の残寿命を把握するとともに、内外装の改修、設備機器の更新等をまとめて行うリニューアル改修に向けた調査を行い、新たな老朽化対策の検討を進めました。</p>					
今後の方向性					
<p>○年間5万㎡弱ずつの実施にとどまっている大規模改造事業の実施のペースを速めるよう予算の確保に努め、児童生徒が安心して快適に学ぶ環境の整備を推進します。</p> <p>○構造体の耐久性調査により、おおよそ築40年を経過した校舎の残寿命を引続き把握するとともに、リニューアル改修にかかる基本調査・基本設計を行い、校舎の計画的な維持更新の検討をさらに進めます。</p> <p>○夏季の気温上昇や学校現場の状況から、子どもたちのよりよい学習環境の整備のため、普通教室の冷房化について調査を実施します。</p>					

◆事業の実施状況(23年度)

事業名【所管】	安心・安全で快適な教育環境整備のための改築・改修【学校整備課】				
23年度決算額	2,851,338千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
構造体の耐久性調査の実施	構造体の耐久性調査の実施 (195棟)	構造体の耐久性調査の実施 (138棟)・リニューアル 改修に向けた調査の実施			構造体の耐久性調査及び改築・リニューアル改修などの実施
大規模改造事業(第4次計画)の改修済み面積	4万8千㎡	9万㎡			40万㎡
明るいトイレ改修事業整備率(小・中学校)	61.8%	73.2%			100%
事業の実施状況					
<p>○小学校24校、中学校8校について大規模改造工事を実施しました。</p> <p>○小学校22校、中学校13校について大規模改造設計を実施しました。</p> <p>○小学校59棟、中学校79棟について構造体の耐久性調査を実施しました。</p> <p>○リニューアル改修に向けた調査を実施しました。</p>					

事業名【所管】	校庭・園庭の芝生化【学校整備課】				
23年度決算額	5,000千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
校庭・園庭の芝生化	小学校1校 幼稚園2園	小学校2校 幼稚園3園			小学校6校 幼稚園15園
事業の実施状況					
<p>○西中島小学校、楠西幼稚園において、校庭・園庭の芝生化を実施しました。</p> <p>&lt;実施済校(園)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成15年 東桜小学校</li> <li>・平成22年 大幸幼稚園、第三幼稚園</li> </ul>					

事業名【所管】	過大規模校解消のための新設校の建設【学校整備課・施設計画室】				
23年度決算額	1,092,836千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
下志段味小学校の建設	実施設計	建設			24年度開校
事業の実施状況					
<p>○みんなが集える空間づくりとして、校舎棟中央に多目的ホールを整備しました。</p> <p>○雨水利用、屋上緑化、太陽光発電の利用等環境に配慮するとともに、バリアフリーにも配慮した施設を整備しました。</p>					

**施策 8** 地域に開かれ、信頼される学校づくりを進めます

めざす姿	保護者や地域からの意見が反映された学校づくりが進められている
------	--------------------------------

◆施策評価

目標への到達状況					
成果指標	22年度 (策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)
学校関係者評価を活かした学校改善の実施率	65% (20年度)	96%			80%
施策への貢献度及び目標に対する評価					
<p>○学校評議員制や、保護者や地域の人々等による学校関係者評価をほぼすべての学校で実施することにより、学校から地域へ積極的に情報発信する状況が整ってきました。また、あいさつ運動の強化や異学年交流の充実等学校関係者評価を活かした学校改善の実施率も96%と高まっており、保護者や地域の意見を反映した学校づくりに取り組むことができました。</p>					
今後の方向性					
<p>○学校関係者評価の実施が進んだ一方で、学校評価の情報提供においてホームページを活用している学校の割合は低い水準にとどまっているため、23年度の実践を踏まえ、情報提供を行っていくよう学校に対して積極的に呼びかけていきます。</p>					

◆事業の実施状況(23年度)

事業名【所管】	学校評議員制・学校評価【指導室・教職員課】				
23年度決算額	6,696千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
学校関係者評価を活かした学校改善の実施率	65% (20年度)	96%			80%
事業の実施状況					
○市立学校(園)の412校(園)で延べ2,040名に学校評議員を委嘱し、各校(園)では1校(園)平均、個別対話形式3回、会合形式2.25回の意見聴取の機会を設け、また、市立学校(園)の99%(384校・23園)が学校関係者評価を実施し、そのうち96%(367校・23園)の学校(園)が学校関係者評価を活かして、それぞれ学校運営の改善を図りました。					

事業名【所管】	学校開放週間【指導室】				
23年度決算額	一千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
小・中学校の学校開放週間の実施状況	実施	実施			実施
事業の実施状況					
○すべての小・中学校が学校開放週間を設定し、保護者や地域の方々々が授業や行事を参観しました。					

事業名【所管】	学校ホームページによる地域への情報提供【指導室】				
23年度決算額	一千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
ホームページを使った学校評価の情報提供率	20%	27.0%			100%
事業の実施状況					
○学校ホームページの更新を呼びかけ、学校(園)の状況、教育活動の様子、学校評価等を家庭や地域に発信し、連携を進めるように働きかけました。					

施策 9

豊かな人間性と確かな指導力を持った教員を確保し、養成します

めざす姿	豊かな人間性を備え、使命感あふれる教員を確保し、養成できている
------	---------------------------------

◆施策評価

目標への到達状況					
成果指標	22年度 (策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)
教職員評価アンケートにおいて、「自己目標を明確にし、実践できた」と回答した教職員の割合	75% (21年度)	79.2%			100%
施策への貢献度及び目標に対する評価					
<p>○経験年数や職務内容に応じた研修を協議や演習を取入れて行うことで、受講者の満足度を上げ、教員の力量を向上させることができました。また、教員免許状更新講習を実施し、より教育実践に役立つ内容を取上げ、先進的・専門的・実践的な知識や技能を習得させ、教員として必要な資質を高めることができました。</p> <p>○教員採用試験では、大量退職時代が続くなか、一定の倍率を保つことができました。また、面接試験を3回実施し、面接重視の選考を行うことで豊かな人間性を備えた人材を確保することができました。</p> <p>○なごや教師養成塾では、指導技術や教育課題への対応を学ぶ84の「講座」や、授業力や児童との接し方を身に付ける「体験研修」を行うことにより、採用後すぐに学級担任を務めることができる即戦力となる人材を育成確保することができました。</p> <p>○教職員評価システムを通じて、自己目標の申告や評価者との面談を実施し、教員の意欲や指導力の向上を図ることができました。</p>					
今後の方向性					
<p>○急増する若手教員の実践的指導力を向上させるため、研修内容をより現場のニーズをとらえた内容に改善していきます。</p> <p>○教員採用試験では、より多様な人材を採用するため、講師経験を有する受験者の年齢制限の緩和等を24年度から実施するとともに、引続き、受験者の確保に努め、面接重視の選考を行うことで、豊かな人間性を備えた人材の確保を図ります。</p> <p>○教師養成塾については、引続き開講し即戦力となる人材の育成を図る一方、そのあり方を含めた今後の方向性について検討していきます。</p> <p>○教職員評価システムを引続き実施し、教職員の意欲、資質・能力の向上を図ります。</p>					

◆事業の実施状況(23年度)

事業名【所管】	教員採用【教職員課】				
23年度決算額	一千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
募集人員に対する受験者の倍率	6.3倍	6.3倍			6.5倍
事業の実施状況					
○募集人員約365人に対し、小学校793人、中・高等学校1,166人、特別支援学校80人、養護教諭154人、幼稚園119人の計2,312人が受験しました。					

事業名【所管】	なごや教師養成塾【教育センター】				
23年度決算額	15,794千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
卒塾生配置校の校長を対象とした調査に「塾で学んだことが学校で生かされている」と回答した割合	—	100%			100%
事業の実施状況					
○本市小学校教員を目指す塾生に講座及び体験研修を実施しました。 ・卒塾 63人(第3期生) ・入塾 60人(第4期生)					

事業名【所管】	教員研修【教育センター】				
23年度決算額	88,511 千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
受講者による理解度・満足度の効果測定値平均(4点満点)	基本研修 3.5 経営研修 3.7 専門研修 3.6 長期研修 3.6 (21年度)	基本研修 3.6 経営研修 3.7 専門研修 3.6 長期研修 3.8			基本研修 3.5以上 経営研修 3.7以上 専門研修 3.6以上 長期研修 3.6以上
事業の実施状況					
○初任者研修・5年目研修・10年目研修等の基本研修や、校(園)長・教頭への経営研修等、98種類の研修・講座を実施し、約14,500人(延べ約37,700人)が受講しました。					

事業名【所管】	時代に合った魅力ある授業手法の開発・普及【教育センター】				
23年度決算額	96千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
受講者による理解度・満足度の効果測定値平均(4点満点)	3.8	3.8			3.8以上
事業の実施状況					
○児童生徒が楽しく学ぶことができる魅力ある授業手法についての研修を小学校14講座、中学校11講座実施し、2,703人(延べ9,446人)が受講しました。					

事業名【所管】	授業名人による授業のコツの伝承【教育センター】				
23年度決算額	一千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
授業で活用できる教材などの電子配信	—	実施			実施
事業の実施状況					
○小・中・特別支援学校において、授業で活用できる学習プリントや指導上の留意点等授業のアイデアを学校向けホームページに掲載しました。					

事業名【所管】	新たな課題に対応した研修【教育センター】				
23年度決算額	16千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
延べ受講終了者数	127人	179人			280人
受講者による理解度・満足度の効果測定値平均(4点満点)	3.5	3.3			3.5以上
事業の実施状況					
○「日本語指導を必要とする児童生徒指導法講座」を3日実施し、52人が受講しました。					

事業名【所管】	情報機器活用能力に関する研修【教育センター】				
23年度決算額	6,961千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
文部科学省「教員のICT活用能力調査」のうち、全国平均を上回る項目数	5項目中 2項目 (21年度)	5項目中 1項目 (22年度)			全項目
事業の実施状況					
○コンピュータに関する講座26講座を実施し、1,921人が受講しました。					

事業名【所管】	民間企業等における社会体験研修【教育センター】				
23年度決算額	51千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
受講者による理解度・満足度の効果測定値平均(4点満点)	3.7 (21年度)	3.8			3.7以上
事業の実施状況					
○教頭2名、教諭8名がサービス業をはじめとするさまざまな民間企業等で約1ヵ月間の体験研修を受講しました。					

事業名【所管】	教育に対する信頼を確立するための研修【教育センター】				
23年度決算額	一千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
	実施	実施			実施
事業の実施状況					
○初任者から校長まで、信頼される学校づくり、コンプライアンス等に関連する研修を実施し、1,220人が受講しました。					

事業名【所管】	指導が不適切な教員への研修【教職員課・教育センター】				
23年度決算額	6,907千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
指導力が改善されて学校に復帰した教員の割合	100%	100%			100%
事業の実施状況					
○指導が不適切と判定された教員に対して、指導改善特別研修(校内研修98日、校外研修105日)を実施しました。					

事業名【所管】	教員免許状更新講習【教育センター】				
23年度決算額	18,278千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
受講者評価において「よい」「だいたいよい」と回答する割合	87.8% (21年度)	89.1%			90.0%
事業の実施状況					
○名古屋市教育委員会が開設者となって免許状更新講習を実施し、837人が受講することで教員として必要な資質を高めることができました。					

事業名【所管】	教職員評価・優良教職員の表彰【教職員課】				
23年度決算額	一千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
教職員評価アンケートにおいて、「自己目標を明確にし、実践できた」と回答した教職員の割合	75% (21年度)	79.2%			100%
事業の実施状況					
<p>○教職員評価システムにより、教職員が自己目標を主体的に設定し、校(園)長との面談や自己評価、校(園)長による評価等を実施しました。</p> <p>○学校教育における功績の顕著な教職員を14名、優良教職員として表彰しました。</p>					

施策 10 子どもと向き合う時間を確保し、教育活動の充実を図ります

めざす姿	教員の多忙化を軽減し、教員が子どもとふれあう時間が確保できている
------	----------------------------------

◆施策評価

目標への到達状況					
成果指標	22年度 (策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)
会議の精選や校務の効率化などで生み出された時間	—	1週間あたり 約0.17時間			1週間あたり 1時間 (26年度)
施策への貢献度及び目標に対する評価					
<p>○「元気な学校づくり」プロジェクトにおいては、校務支援ソフトの導入が進み、運用校は平成23年度では20校から133校にまで増加し、また、学校事務支援センターによる一括購入品目の拡大等により、校務の時間が軽減されました。これらにより、1週間あたり約0.17時間の子どもと向き合う時間の確保につながりましたが、目標の1週間あたり1時間に向けた更なる校務の効率化が必要です。</p> <p>○キャリア・マイスターにより、子どもたちに自分の知らなかった分野に興味を持たせ、効果的な指導につなげることができ、キャリア・マイスターを派遣した全ての学校から教育活動の充実を図られたとの回答を得ました。</p>					
今後の方向性					
<p>○教員が子どもと向き合う時間を生み出していくため、校務支援ソフトの導入の更なる促進等の推進により、目標の実現を図ります。また、学校給食費の公会計化とシステム化により、会計事務の簡略化・効率化を図り、目標の実現につなげます。</p> <p>○派遣校を固定したキャリア・マイスターに加え、より多くの学校で活動できる「巡回キャリア・マイスター」を派遣し、引続き実施していきます。</p>					

◆事業の実施状況(23年度)

事業名【所管】	「元気な学校づくり」プロジェクト 【教職員課・指導室・学事課・学校保健課・生涯学習課】				
23年度決算額	58,966千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
アンケート調査で、「子どもとふれあう時間が増えた」と回答した教員の割合	—	72.2%			70%
事業の実施状況					
<p>○行事の運営や学校の環境整備を効果的に行うための運営サポーターの活用を促進しました。</p> <p>○校務支援ソフトの導入が進み、通知表作成等の校務の効率化が図られました。</p> <p>○学校事務支援センターによる一括購入品目の拡大等を行いました。</p> <p>○学校だけでは解決できない困難な課題の解決のため、学校問題解決支援チームを整備しました。</p> <p>○メンタルヘルスクアを推進し、教育活動の充実を図るため「名古屋市教職員いきいき心の健康づくり計画」を策定しました。</p>					

事業名【所管】	学校現場における外部人材の活用【指導室・教職員課】				
23年度決算額	20,687千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
キャリア・マイスター(仮称)を活用して、教育活動の充実が図られたと回答した学校の割合	—	100%			80%
事業の実施状況					
○キャリア・マイスター16名を23校へ派遣し、社会経験や特技等に基づいた指導や講話等を実施しました。					

### (3) 学校・家庭・地域の連携

「親学」の推進、あいさつ運動、PTA・女性会などとの連携による地域活動の促進などにより、学校・家庭・地域の連携を図ります。

**施策 11** 親子のふれあいと、家庭の教育力の向上を支援します

**施策 12** 地域のつながりを大切にし、地域全体で子どもを見守り、育みます

#### 施策の基本的方向における評価の総括

##### 【おおむね順調な分野】

- 「家庭でしつけ」「学校で学び」「地域で育てる」それぞれの役割を重視しながら、学校・家庭・地域の連携を図りました。
- 家庭に対しては、親子のふれあいを深める機会や子育て支援の充実を図り、また、地域に対しては、子どもを見守る活動の充実やPTA・女性会等の地域に根差した活動の支援・促進に取り組みました。

##### 【今後、充実を図るべき分野】

- 平成23年度、待機児童数が全国最多となったことを受け、子育て支援の充実が求められていることから、「市立・私立の幼稚園における預かり保育」の拡充を図っていきます。

施策 11 親子のふれあいと、家庭の教育力の向上を支援します

めざす姿	親子のふれあう機会が充実し、家庭の教育力の向上が図られている
------	--------------------------------

◆施策評価

目標への到達状況					
成果指標	22年度 (策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)
家庭の教育力の低下を感じている市民の割合	51.1% (21年度)	46.9% (暫定値)			45.0%
施策への貢献度及び目標に対する評価					
<p>○家庭、地域、学校・園と連携し、保護者に、さまざまな取組みに参加していただき、家庭教育について考えていただく機会を提供することにより、一人ひとりの親が、家庭を見つめ直し、「教育の原点は家庭にある」ことを再認識していただくことができました。このことは、家庭の教育力の低下を感じている市民の割合が減少したことに表れています。</p> <p>○「親学」に関する事業を広く展開し、家庭の教育力の向上に努めました。また、「親学推進協力企業制度」の加盟団体を増やし、「親学」の推進を図りました。</p>					
今後の方向性					
<p>○家庭の教育力が低下していると感じる市民の割合が多い現状において、新たに優れた取組みを表彰する等「親学アクション」活動の充実を図るほか、保護者のPTA活動への参加促進等、継続的な取組みを通して、家庭教育力を高めていきます。</p>					

◆事業の実施状況(23年度)

事業名【所管】	親学【生涯学習課】				
23年度決算額	6,345千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
親学推進協力企業登録数	123団体 (21年度)	150団体			200団体
「親学アクション」の取組みを継続している家庭の割合	61.2% (21年度)	59.4%			70.0%
事業の実施状況					
<p>○家庭の教育力を高めるために、「家庭教育セミナー」を開催しました。</p> <p>○コミュニケーションや基本的な生活習慣等「親学アクション」の活動をPTAと連携して広く展開しました。</p>					

事業名【所管】	家庭の日 普及啓発事業【生涯学習課】				
23年度決算額	4,267千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
家庭の大切さ等について考え深めた家庭の割合	—	93.1%			70.0%
事業の実施状況					
<p>○啓発ポスター・作文の募集や「ファミリーデーなごや」の開催を通じて、家庭の大切さ、家庭の役割のすばらしさについてあらためて考える「家庭の日」の普及啓発を推進しました。</p>					

事業名【所管】	幼児期家庭教育支援事業【生涯学習課】				
23年度決算額	1,329千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
「家庭教育相談事業」参加者の満足度	73%	86.2%			80%
事業の実施状況					
<p>○幼児期の子どもをもつ保護者を対象に、「家庭教育相談事業」や「子育てフォーラム」を実施し、また、家庭教育啓発資料「幼稚園の子どもたち」を発行し、家庭教育を支援しました。</p>					

事業名【所管】	保護者のPTA行事等への参加促進【生涯学習課】				
23年度決算額	4,484千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
	実施	実施			実施
事業の実施状況					
<p>○市PTA協議会と連携し、啓発パンフレットの発行や懇談会を行い、保護者のPTA活動への理解を深め、PTA行事等への参加を促進しました。</p>					

## 施策 12

地域のつながりを大切にし、地域全体で子どもを見守り、育みます

めざす姿	学校・家庭・地域が連携し、子どもの見守り活動の充実が図られている
------	----------------------------------

### ◆施策評価

目標への到達状況					
成果指標	22年度 (策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)
子ども安全ボランティアの登録数	69,446人 (22年度)	75,821人			80,000人
私立幼稚園親と子の育ちの場支援事業補助対象園数	119園 (21年度)	124園			補助を希望する全園 (26年度)
施策への貢献度及び目標に対する評価					
<p>○子ども安全ボランティアの登録者数を、PTAや学区の方々の理解を得ながら目標に向けて順調に増やすことができ、子どもの見守り活動の充実を図ることができました。</p> <p>○OPTAの集会、女性会の研究協議大会での情報交換等を通じて、PTAや女性会の地域活動を支援・促進することができました。</p> <p>○新たに「あい・あい・あいさつ活動」を推進することで、全小・中学校のPTAが活動に参加する等、女性会をはじめとした地域団体や学校の協力を得ながら、地域のつながりを深めることができました。</p> <p>○補助を希望した幼稚園124園すべてに対して、私立幼稚園親と子の育ちの場支援事業補助を実施する等、地域子育て支援事業費や、預かり保育補助への補助を通じて、私立幼稚園を拠点とした子育て支援活動の促進を図ることができました。</p> <p>○市立幼稚園において、預かり保育を実施する園を5園に拡大し、家庭での子育て不安の解消に貢献しました。</p>					
今後の方向性					
<p>○子ども安全ボランティアへの参加の呼びかけを継続し、地域による子どもの安全体制の整備に努めていきます。</p> <p>○OPTA・女性会等地域の団体との連携を一層深めるとともに、あい・あい・あいさつ活動等の地域活動を促進していくことにより、地域のつながりを深めていきます。</p> <p>○補助制度の活用を促進し、私立幼稚園での預かり保育や地域子育て支援事業の一層の充実を図ります。</p> <p>○市立幼稚園において、預かり保育を実施する園を拡充し、引続き子育て支援の充実を図ります。</p>					

◆事業の実施状況(23年度)

事業名【所管】	子どもを守る活動【学校保健課】				
23年度決算額	30,347千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
子ども安全ボランティアの登録者数	69,446人	75,821人			80,000人
事業の実施状況					
○子どもの登下校時の安全を確保するため、「スクールガードリーダー(22名)による巡回指導」、「子ども安全ボランティアによる見守り活動」、「なごやっ子安心メールの配信」(6,311回)を行いました。					

事業名【所管】	PTA・女性会等との連携による地域活動の促進【生涯学習課】				
23年度決算額	846千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
	実施	実施			実施
事業の実施状況					
○「PTA指導者研究集会」や「PTA活動研究大会」の中で、地域活動の活性化を促す事例発表等を実施し、PTAの活動を支援しました。					
○「市地域女性団体研究協議大会」や「各区地域女性団体研究協議大会」の中で、地域活動の活性化を促す事例発表等を実施し、女性会の活動を支援しました。					

事業名【所管】	私立幼稚園預かり保育補助事業【学事課】				
23年度決算額	32,049千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
補助対象園数	101園 (21年度)	106園			126園 (希望する全園)
事業の実施状況					
○預かり保育を実施する私立幼稚園106園に対して、授業料及び教育研究費の補助を実施しました。					

事業名【所管】	私立幼稚園親と子の育ちの場支援事業【学事課】				
23年度決算額	58,741千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
補助対象園数	119園 (21年度)	124園			全園 (補助を希望する全園)
事業の実施状況					
○園舎・園庭開放、未就園児対象の親子教室、子育て相談等、地域子育て支援事業を実施する私立幼稚園124園に対して、事業費の一部を補助しました。					

事業名【所管】	あい・あい・あいさつ活動推進事業【生涯学習課・指導室】				
23年度決算額	5,260千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
あい・あい・あいさつ活動へのPTA参加率	—	100%			100%
事業の実施状況					
<p>○笑顔いっぱい「アサガオ運動」や「あい・あい・あいさつの日(11月1日)」「あいさつ月間(11月)」の実施を通じて、PTAを中心に、女性会を始め地域の諸団体や学校、家庭が連携し、実践的な「あいさつ活動」を実施しました。また、マスコットキャラクター・標語や「あいさつの歌」を活用し、あいさつの輪を広げる広報を展開しました。</p>					

#### (4) 教育関連制度の改革・改善

制度改革に向けて国や県に対して要望を行ったり、高等学校入学準備金などによる保護者負担の軽減により、名古屋の教育関連制度の改革・充実を図ります。

**施策 13** 教育に関する権限を拡充し、改革を進めます

**施策 14** 保護者負担を軽減するなど、多様な進路選択を支援します

#### 施策の基本的方向における評価の総括

##### 【おおむね順調な分野】

○さまざまな機会を捉え、国や県に対する要望に継続的に取組み、柔軟な学級編成ができる新たな仕組みが国から示されました。また、保護者の経済的負担の軽減についても、市民のニーズに即した事業の拡充を図りました。

##### 【今後、充実を図るべき分野】

○保護者の経済的負担の軽減については、「高等学校入学準備金」の貸与の拡充等、市民ニーズにさらに応えていくよう努めます。

施策 13 教育に関する権限を拡充し、改革を進めます

めざす姿	制度改革を目指した取組みを進めている
------	--------------------

◆施策評価

施策への貢献度及び目標に対する評価

- 国に対して、教職員の給与費負担の移管及び学級編制や教職員定数等の包括的な権限移譲等、税財源の移譲を含んだ制度改革の推進を働きかけました。また、県に対して、本市の実情に応じて、円滑な権限移譲が進められるよう働きかけました。
- 学級編制について、都道府県への事前協議制を事後届出制とする等、柔軟に学級を編制できる仕組みが平成24年4月1日から実施されることとなりました。

今後の方向性

- 引続き国の動向を注視しつつ、他の指定都市との共同でもしくは名古屋市独自で、県費負担教職員の給与費負担の移管等について、機会を捉えて働きかけを実施していきます。

◆事業の実施状況(23年度)

事業名【所管】	制度改革に向けての要望【指導室・教職員課他】				
23年度決算額	一千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
要望活動	実施	実施			実施
事業の実施状況					
<p>○「平成24年度 国の施策及び予算に関する提案」【指定都市】、「要望書」【指定都市教育委員・教育長協議会】、「平成24年度 国の施策及び予算に関する重点事項の提案」【名古屋市】、「平成24年度 名古屋市の行財政に対する県費補助及び県の施策等に関する要望」【名古屋市】、「平成24年度 県費補助等に関する要望書」【名古屋市教育委員会】により要望活動を行いました。</p>					

施策 14 保護者負担を軽減するなど、多様な進路選択を支援します

めざす姿	保護者負担を軽減することにより、多様な進路選択の機会が提供されている
------	------------------------------------

◆施策評価

施策への貢献度及び目標に対する評価
<p>○経済的理由により進学が困難な生徒に対して、入学時に一時的に必要となる学資を貸与することで、保護者の経済的な負担感を軽減し、進学を確保することに貢献しました。22年度は200名を対象として貸与を実施しましたが、23年度は220名へ拡充することができました。</p> <p>○私立高等学校や私立幼稚園に通う生徒・園児の保護者に対して、世帯の所得等に応じた補助をすることで、子育て世帯の経済的負担感を軽減し、多様な進路選択の機会を確保することに貢献しました。</p>
今後の方向性
<p>○経済的理由により高等学校等への進学を断念することのないよう、高等学校入学準備金について、貸与を拡充し、貸与を必要とする人全員に貸与できることを目指します。</p> <p>○公私間における保護者負担の格差是正を図り、幼稚園や高等学校に就園・就学したいと希望する方に対して、その機会を提供していくことを目指します。</p>

◆事業の実施状況(23年度)

事業名【所管】	高等学校入学準備金事業【学事課】				
23年度決算額	6,600千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
	実施	実施			実施
事業の実施状況					
○平成24年度に高等学校へ入学を希望する者314人の応募に対し、選考により220人に30万円を貸与しました。					

事業名【所管】	私立高等学校授業料補助事業【学事課】				
23年度決算額	51,639千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
	実施	実施			実施
事業の実施状況					
○申請のあった生徒2,479人に対して、世帯の所得階層に応じて、授業料の補助を実施しました。					

事業名【所管】	私立幼稚園授業料補助事業【学事課】				
23年度決算額	2,345,202千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
	実施	実施			実施
事業の実施状況					
○申請のあった園児31,349人に対して、世帯の所得階層及び兄または姉の状況に応じて、授業料等の補助を実施しました。					

## (5) 生涯を通じた学びの支援

生涯にわたって学び続ける環境の整備、ボランティア活動の促進、文化財保護事業などにより、生涯を通じた学びの支援に取り組めます。

**施策 15** 生涯学習の機会と場を提供し、学ぶ楽しさや意欲を高めます

**施策 16** 学びの成果を社会に生かすことができるよう、支援します

**施策 17** 名古屋の歴史や文化に根ざした魅力を大切にし、発信します

### 施策の基本的方向における評価の総括

#### 【おおむね順調な分野】

○生涯にわたって学び続ける環境整備のうち、学習の機会や場所を提供する分野では、講座や展示、サービスの向上に努め、社会教育施設をより利用していただけるよう取り組みました。特に科学館では、天文館・理工館を新館開館し、魅力ある施設づくりを行いました。

#### 【今後、充実を図るべき分野】

○学びの成果を社会に生かせるよう支援する分野では、社会教育施設におけるボランティア活動の促進に努め、機会の充実を図りましたが、学びの成果を生かしているという実感には十分つながっていないことが課題です。「生涯学習センターのあり方の検討」などを行うなかで、さらなる工夫に努めます。

○名古屋の歴史や文化を発信する分野については、博物館や美術館等の入場者数に課題が見られます。常設展示をリニューアルし、郷土の作家や人物にスポットを当てる等、拠点としての充実を図ることが必要です。

施策 15 生涯学習の機会と場を提供し、学ぶ楽しさや意欲を高めます

めざす姿	多様化する学習ニーズに応え、生涯学習の機会や場所が提供できている
------	----------------------------------

◆施策評価

目標への到達状況					
成果指標	22年度 (策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)
社会教育施設における接遇の利用者満足度	78.2% (21年度)	91.5%			100%
図書館における市民1人当たりの貸出点数	5.15点 (21年度)	5.42点			5.41点
施策への貢献度及び目標に対する評価					
<p>○社会教育施設においてさまざまな展覧会、講演会、講座等の実施、自主グループの活動への支援、大学等関係機関との連携とともに、接遇チェックシートによる接遇向上に積極的に取り組み、生涯学習の機会と場づくりに貢献しました。</p> <p>○鶴舞中央図書館における開館時間の延長や全館での「ほんシェルジュ」サービスを開始し、利用者のニーズに応える取り組みを行った結果、図書館における市民1人当たりの貸出点数が増える等図書館の利用が促進されました。</p> <p>○科学館では天文館・理工館を新館開館し、世界最大のプラネタリウムBrother Earthや、自然の不思議を体感できる大型展示を整備する等、個々の興味・関心に応じて自ら学ぶことができる機会と場を提供できる魅力ある施設づくりを行った結果、平成23年度の入場者数は153万人を突破しました。</p>					
今後の方向性					
<p>○生涯学習センターのあり方については現在社会教育委員協議会で検討中であり、利用者・市民の意見を聴取しながら管理運営体制について検討していきます。また、女性会館については現在庁内検討会議で検討中であり、利用者・市民の意見を聴取しながら今後のあり方について検討していきます。検討結果を踏まえ、多様化する学習ニーズに応え、市民への生涯学習の機会や場所の提供に努めます。</p> <p>○図書館では、図書の購入や各種サービスをより充実させるため、窓口業務委託の導入や指定管理者制度の試行導入等、一定の管理運営体制の効率化に組みつつ、子どもから大人まで、市民が生涯にわたって読書に親しむことができるような機会と場所の提供に努めます。</p> <p>○地元商店街等との意見交換を繰返し行い、平成24年度に「芸術と科学の杜連携推進会議」を設立するとともに、平成23年度に引き続き、芸術家と科学者による講演会の実施、両館常設展示室の共通観覧券の販売等の科学館と美術館の連携事業の充実に努めます。</p>					

◆事業の実施状況(23年度)

事業名【所管】	社会教育施設の接遇向上～明るい！さわやか！～ 【生涯学習課・スポーツ振興課・女性会館・見晴台考古資料館・ 博物館・美術館・科学館・図書館】				
23年度決算額	一千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)
チェックシートによる改善	—	実施			実施
事業の実施状況					
○接遇チェックシートを活用し、職場内の接遇事例でよかったこと、改善すべきことを共有する等、各館をあげて、接遇向上に努めました。					

事業名【所管】	生涯学習センター・生涯学習推進センターの運営 【生涯学習課・生涯学習推進センター】				
23年度決算額	502,116千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)
主催講座について「大変満足」と回答した人の割合 【生涯学習課】	55.4% (21年度)	47.1%			60.0%
ホームページに大学講座検索機能追加 【生涯学習推進センター】	—	8大学			8大学
大学・企業・NPOとの連携など特色のある講座の実施 【生涯学習推進センター】	—	1講座			3講座
事業の実施状況					
○利用者数 ・生涯学習センター：1,366,948人					
○受講者数 ・生涯学習センター：7,550人(305講座) ・生涯学習推進センター：4,763人(39講座)					
○各区の生涯学習センターにて現代的課題の講座、講演会等を実施し、市民に学習機会を提供するとともに、市民の自主的な学習活動に対して支援を行いました。					
○大学連携協議会(愛知県内28大学参加)を開催し、生涯学習推進センターのホームページへの情報提供を呼びかけました。					
○NPO法人とともに「生涯学習支援アドバイザー養成講座」を実施しました。					

事業名【所管】	女性会館の運営【女性会館】				
23年度決算額	68,549千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
学習機会提供講座	16講座 (67回)	18講座 (77回)			16 講座 (75 回)
講演会等	12回	13回			12 回
図書の出冊数	4,300冊	4,329冊			5,000 冊
事業の実施状況					
<p>○利用者数250,674人(うち図書資料室15,017人)</p> <p>○女性の生涯にわたる学びを支援するため、女性のエンパワーメント・社会的性別(ジェンダー)の視点で講座・講演会等の学習機会を全て託児付きで提供しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主催講座の学習者数481人、充足率89.9%、託児数151人</li> <li>・公開講座・講演会の学習者数2,038人、託児数80人</li> </ul> <p>○女性会館での学びがさらに深まるよう、ブックフェアのリストを作成し、関連講座・講演会での配布・PRや、公開講座チラシや新着速報のスペースを有効活用して関連図書の紹介を行いました。</p>					

事業名【所管】	生涯にわたって読書に親しむ環境の整備【図書館】				
23年度決算額	206,221千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
図書館における市民1人当たりの貸出点数	5.15点 (21年度)	5.42点			5.41点
事業の実施状況					
<p>○鶴舞中央図書館の開館時間を午前10時から午前9時30分に延長しました。</p> <p>○全図書館(21館)で、図書館の利用方法や資料について案内するほんシェルジュサービスを開始しました。</p> <p>○点字文庫のホームページを新たに開設しました。</p>					

事業名【所管】	見晴台考古資料館の運営【見晴台考古資料館】				
23年度決算額	11,896千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
地域対象事業の実施回数	2回	5回			5 回
事業の実施状況					
<p>○市民が参加し遺物の整理作業に参加する「みはらしの日」を毎月開催するとともに、区民まつり等への参加や近隣中学校写生大会の展示等地域に根ざした行事を実施しました。</p>					

事業名【所管】	博物館・美術館における一般向け教育普及事業				
23年度決算額	一千円【博物館】 8,197千円【美術館】				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
参加者数【博物館】	5,847人 (21年度)	9,559人			6,000人
参加者数【美術館】	3,750人 (21年度)	4,797人			4,000人
実施回数【美術館】	39回 (21年度)	39回			40回
事業の実施状況					
<p>【博物館】</p> <p>○「はくぶつかん講座」を10回開催しました。</p> <p>○特別展の際には、それぞれ講演会、展示説明会を行ったほか、セミナーや実演会、音楽コンサート等、多様な事業を実施しました。</p> <p>【美術館】</p> <p>○一般向けの講演会、解説会、ギャラリートークを実施しました。</p> <p>○美術に関連した知識を普及するため、図書室を運営しました。</p>					

事業名【所管】	博物館・美術館における特別展				
23年度決算額	75,000千円【博物館】 78,621千円【美術館】				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
入場者数【博物館】	117,807人 (21年度)	111,551人			125,000人 (24~26年度平均)
特別展入場者の満足度【博物館】	—	85.0%			80.0%
入場者数【美術館】	260,110人 (21年度)	218,576人			230,000人 (24~26年度平均)
特別展入場者の満足度【美術館】	—	93.0%			85.0%
事業の実施状況					
<p>【博物館】</p> <p>○海外の文化財を紹介する展覧会として「オルメカ文明展」「ヴェネツィア展」を開催しました。</p> <p>○名古屋周辺の文化財を紹介する展覧会として「甚目寺観音展」「狂言でござる」を開催しました。</p> <p>【美術館】</p> <p>○国内外の美術を紹介する展覧会として特別展5本(「東松照明展」「レンブラント展」「平松礼二展」「中村正義展」「ベン・シャーン展」)を開催しました。</p>					

事業名【所管】	博物館の機能強化【博物館】				
23年度決算額	一千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)
	—	検討			検討
事業の実施状況					
○常設展の魅力向上を目指し、臨時休館中に展示替えを行うとともに、博物館の目指す姿について、館内で検討を行った。					

事業名【所管】	生涯にわたって科学を学び続ける環境の整備【科学館】				
23年度決算額	4,198千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)
プラネタリウムの満足度	—	94%			90%
夜間プラネタリウム観覧者数	1,268人 (21年度)	3,720人			3,600人
事業の実施状況					
○夜間プラネタリウムを毎月1回、毎回異なるテーマで開催しました。 ○子どもだけでなく、大人も科学に興味をもつきっかけとなるよう親子対象事業を開催しました。					

事業名【所管】	美術館・科学館における芸術と科学の杜【美術館・科学館】				
23年度決算額	103千円【美術館】		1,437千円【科学館】		
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)
「芸術と科学の杜」連携事業の実施	—	年1回以上			年1回 以上
事業の実施状況					
○共通観覧券発行、特別展相互割引、芸術家と科学者の対談、スタンプラリー、オープンカフェ、「芸術と科学の杜」サイン整備、「芸術と科学の杜」連携推進会議の立上げ準備を実施しました。					

施策 16

学びの成果を社会に生かすことができるよう、支援します

めざす姿	市民が生涯にわたって、さまざまな学習に取り組む、その成果を社会に還元しながら活動している
------	--

◆施策評価

目標への到達状況					
成果指標	22年度 (策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)
生涯学習の成果を社会に還元している市民の割合	14.5% (21年度)	12.2%			22.0%
施策への貢献度及び目標に対する評価					
<p>○各生涯学習センターにおいて、名古屋の歴史・文化・自然について学んだ受講者に「なごや学マイスター」の認定を行い、その後も市民が学びの成果を生かせる活動の継続を支援しました。</p> <p>○成果指標である、生涯学習の成果を社会に還元している市民の割合は、10%前半にとどまっているものの、各施設における特色を生かしたさまざまなボランティア活動の場を回数・人数等規模を拡大して提供することができました。</p>					
今後の方向性					
<p>○生涯学習センター・各社会教育施設において、各ボランティアの学習状況に応じた成果を生かすため、成果を社会に還元していると実感を持てるような、より幅広い活動の機会を提供するとともに、ボランティアに対して意識啓発を行っていくことで、成果指標達成に貢献できるよう取り組んでいきます。</p>					

◆事業の実施状況(23年度)

事業名【所管】	なごや学マイスター制度【生涯学習課】				
23年度決算額	1,619千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
なごや学マイスター制度における活動者数	800人 (21年度)	1,455人			2,000人
事業の実施状況					
○各生涯学習センターで実施する「なごや」の歴史・文化・自然に関する「なごや学マイスター講座」を実施しました。(計24講座)					

事業名【所管】	社会教育施設におけるボランティア活動				
23年度決算額	1,003千円【生涯学習推進センター】		1,060千円【女性会館】		
	387千円【図書館】		743千円【博物館】		
	1,240千円【美術館】		7,330千円【科学館】		
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
ボランティア活用件数【生涯学習推進センター】	25件 (21年度)	57件			60件
施設ボランティア活動人数【女性会館】	54人	62人			60人
おはなし会の実施回数【図書館】	1,648回 (21年度)	1,878回			1,820回
ボランティア活動延べ人数【博物館】	720人 (21年度)	829人			1,400人
ボランティア活動延べ人数【美術館】	1,264人 (21年度)	1,169人			1,300人
ボランティア活動延べ人数【科学館】	1,386人 (21年度)	5,281人			4,600人
事業の実施状況					
<p>【生涯学習推進センター】</p> <p>○教育サポーターネットワークのボランティア登録用パンフレットに、ボランティアの利用条件や紹介方法等を掲載し、活動実践の場の紹介を行いました。</p> <p>【女性会館】</p> <p>○ボランティアグループと協働して、「点訳ボランティア入門講座」を前期・後期に開催し、グループへの新たな加入者がありました。</p> <p>○ボランティアグループと協働して主催講座の企画・運営を行いました。また、施設ボランティアが講座・講演会等の託児活動を99回、講演会の要約筆記を11回、講座資料等の点訳を47件行いました。</p> <p>○ボランティア活動を継承するための研修会を6回開催しました。</p> <p>【図書館】</p> <p>○ボランティアが乳幼児・児童・保護者等を対象に、おはなし会を実施しました。</p> <p>○平成23年度ボランティア活動人数は686人でした。</p> <p>【博物館】</p> <p>○ボランティアが常設展展示ガイド、体験事業等の補助を行いました。</p> <p>○常設展ガイドボランティアの活動を活発化・多様化するために活動条件の変更を行いました。</p> <p>【美術館】</p> <p>○ボランティアが常設展及び特別展のギャラリートークを実施しました。</p> <p>○ボランティアが小・中学校の団体入館者の対応を実施しました。</p> <p>○ボランティアが「キッズの日」のスタッフ活動を実施しました。</p> <p>【科学館】</p> <p>○展示室ボランティアが常設展示等の説明、利用にあたっての安全指導を行いました。</p> <p>○天文ボランティアが市民観望会(12回)・昼間の星をみる会(22回)の指導者・助手として活動を行いました。</p> <p>○ものづくりボランティアが館の事業(ものづくり教室・ものづくり工房)のほか、生涯学習センター等が主催する事業や出前ものづくり工房の講師・助手として活動を行いました。</p>					

施策 17 名古屋の歴史や文化に根ざした魅力を大切にし、発信します

めざす姿	名古屋の歴史や文化が大切にされるとともに、その魅力が広く知られている
------	------------------------------------

◆施策評価

目標への到達状況					
成果指標	22年度 (策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)
博物館、蓬左文庫、秀吉清正記念館、美術館の入場者数	1,147,954 人 (21年度)	988,688人			1,200,000人 (24~26年度 平均)
施策への貢献度及び目標に対する評価					
<p>○「名古屋」「尾張」「郷土」といったキーワードを重視し、それぞれの館の個性を生かした展示をする等、名古屋の歴史や文化の魅力を発信に努めましたが、常設展の入場者数の増加にはつながりませんでした。</p> <p>○見晴台遺跡発掘事業への市民参加、図書館との協働による土器の展示、古墳や史跡等を紹介するイベントを行い、文化財を保護する大切さへの理解を深めました。</p>					
今後の方向性					
<p>○各施設では、地域に根ざした歴史や文化を紹介し、収集した作品・資料のより充実した活用を図り、各施設が連携することにより効果的に名古屋の歴史や文化の魅力を発信していきます。また、一層のPR方法や常設展示方法のあり方を研究し、減少した入場者数の回復を目指します。</p> <p>○文化財保護事業や見晴台遺跡発掘事業では、より多くの方に名古屋の歴史や文化を体感できる貴重な機会を提供していきます。特に、「歴史の里」事業については、博物館において志段味古墳群に関する企画展を開催する等、整備に向けての気運を高めていくようPR活動に努めます。</p>					

◆事業の実施状況(23年度)

事業名【所管】	文化財保護事業【文化財保護室】				
23年度決算額	43,112千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
文化財保護事業費補助件数	74件 (21年度)	44件			74件
市内遺跡の発掘調査件数	4件 (21年度)	3件			4件
事業の実施状況					
<p>○名古屋市文化財保護条例の規定により指定された文化財の修理、復旧等に要する経費の一部を補助し、市内にある遺跡の発掘調査を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財保護補助、建中寺開山堂、光背壁修理等44件</li> <li>・遺跡発掘調査、玉ノ井第9次等3件</li> </ul>					

事業名【所管】	わくわく文化財普及事業【文化財保護室・見晴台考古資料館】				
23年度決算額	— 千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
埋蔵文化財展示コーナー設置または図書館との合同企画実施区数	—	2区			全区で実施
事業の実施状況					
<p>○図書館と協働し、土器の展示・古代の歴史に関する公演を行い、地域の古墳や史跡等に関連する図書館の紹介を行うイベントを実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・守山区(志段味図書館)</li> <li>・昭和区(鶴舞中央図書館)</li> </ul>					

事業名【所管】	歴史の里の整備【文化財保護室】				
23年度決算額	6,769千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
守山区上志段味の古墳群を知っている市民の割合	—	46%			70%
事業の実施状況					
<p>○貴重な文化財である志段味古墳群やそこから出土した品に親しむ「歴史の里(志段味古墳群)」パネル展・講演会等の事業を実施しました。</p>					

事業名【所管】	見晴台遺跡市民発掘事業【見晴台考古資料館】				
23年度決算額	771千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
市民発掘参加者の満足度	—	89%			80%
土器洗い等への市民参加者	117人	106人			140人
事業の実施状況					
○見晴台遺跡第51次発掘調査を実施し、市民参加発掘として延べ482人の参加を得ました。					

事業名【所管】	博物館・美術館における資料収集、保管調査				
23年度決算額	10,132千円【博物館】 6,463千円【美術館】				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
資料の活用数【博物館】	3,088点 (21年度)	2,867点			3,300点
秀吉研究【博物館・秀吉清正記念館】	—	資料調査・ 研究			資料調査・ 研究
常設展・企画展の回数【美術館】	5回 (21年度)	6回			6回
事業の実施状況					
<p>【博物館】</p> <p>○資料の収集を継続的に行い、展示等を企画し活用を図った。また、調査研究として「デジタルデータの保存と活用」「松坂屋コレクションの基礎的研究」を行いました。</p> <p>【秀吉清正記念館】</p> <p>○秀吉研究の体制を整えるため、関係者等と連絡・協議を行いました。</p> <p>【美術館】</p> <p>○常設展「名品コレクション展Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を3回、企画展「宮島達男展」「池水慶一展」「北川民次の芸術展」を3回、合計6回開催しました。</p>					

事業名【所管】	蓬左文庫の運営【蓬左文庫】				
23年度決算額	108,889千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
総入館者数	236,432人 (21年度)	221,936人			250,000人
事業の実施状況					
<p>○徳川美術館と連携して2回の特別展と5回の企画展を開催しました。また、文化財保護室との共催により東区の寺院特別公開を行い、案内ツアー等を実施しました。</p> <p>○歴史資料情報の活用を目的に、資料のデータ化、また、展示による公開のための宮大工資料の整理を進めました。</p>					

事業名【所管】	秀吉清正記念館の運営【秀吉清正記念館】				
23年度決算額	12,067千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
総入館者数	47,744人 (21年度)	56,496人			50,000人
事業の実施状況					
<p>○特別陳列「三成と清正」を開催し、常設展の展示替6回、特集展示3回、夏休みの子ども向け特集展示等を行いました。</p> <p>○市民ボランティア「中村まち歩きマイスター」とともに、秀吉・清正の生誕地の石碑、豊国神社等の史跡を巡る「中村公園を歩こう」等を行いました。</p>					

事業名【所管】	名古屋教育史の編さん【教育センター】				
23年度決算額	4,581千円				
事業の指標内容	22年度(策定時)	23年度	24年度	25年度	26年度(目標)
	写真集の発刊	編さんに係る 資料調査			教育史の 編さん・発刊
事業の実施状況					
○教育史に関する資料調査を実施しました。					

<参考>各館入場者数内訳の推移

区分	21年度	22年度	23年度
博物館	483,413	513,426	400,384
蓬左文庫	236,432	258,511	221,936
秀吉清正記念館	47,744	50,154	56,496
美術館	380,365	463,085	309,872
合計	1,147,954	1,285,176	988,688

## 名古屋の教育を取り巻く現状を踏まえた課題に対応した取組み

名古屋市教育振興基本計画掲載事業のほか、名古屋の教育を取り巻く現状を踏まえ平成 23 年度に取組んだ主な事業は以下のとおりです。

事業名【所管】	防災教育の推進【指導室】
23 年度決算額	一千円
事業の実施状況	○「防災ノート」「防災教育の手引き」の発行準備を行いました。

事業名【所管】	津波避難ビル整備の推進【学校整備課】
23 年度決算額	1,439 千円
事業の実施状況	○津波避難ビルの整備に向けた内部検討を行いました。 ○非常時に避難階の教室を開錠できるよう、津波避難ビルに指定された校舎 4 階等に避難する動線上に、鍵ボックスを設置しました。

事業名【所管】	安全指導體制の充実【スポーツ振興課・学校保健課・指導室】
23 年度決算額	442 千円
事業の実施状況	○平成 23 年度に起きた高等学校柔道部での死亡事故を受け、柔道安全指導検討委員会を立上げ、柔道の安全指導とともに、事故発生時の緊急体制の再確認を行いました。

### 今後の方向性

#### 【防災教育の推進】

- 「防災教育講習会」を開催し、陸前高田市の中学校長による講演会等を通して各学校・幼稚園の防災意識を高めます。
- 「防災ノート」の児童生徒への配布、「防災教育の手引き」を教職員に配布するとともに、さまざまな機会を通じて、防災教育を推進していきます。

#### 【津波避難ビル整備の推進】

- 市民の命と安全を第一に考え、港区・南区で津波避難ビルに指定されていない小・中学校について、指定を受けるために3階屋上に避難できるよう必要な整備を実施していきます。

#### 【安全指導體制の充実】

- 柔道安全指導検討委員会の提言を受け、柔道事故の再発防止策を講じます。具体的には、安全指導の手引き等を作成し、それらをもとに安全指導を学校現場で徹底します。また、柔道の専門家による巡回指導、外部指導者派遣の拡充、柔道授業・部活動の実施環境の安全対策等を必要に応じて実施します。
- 重大な学校事故が発生した場合に、外部有識者を含む組織を設置し、事後原因の調査や再発防止策の検討を行います。

## 第 2 章 学識経験者による評価

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 27 条第 2 項の教育に関する学識経験者の知見の活用につきましては、本市の教育行政に識見のある 6 名に依頼し、8 月 23 日（木）に「教育に関する事務の管理・執行状況の点検・評価に係る知見委員会議」を開催して、意見を聴取しました。

### < 知見委員名簿 >

天谷 昭裕	ジェイアールセントラルビル（株）代表取締役社長
加藤 玲子	名古屋市地域女性団体連絡協議会 会長
栗田 千尋	名古屋市教育振興基本計画検討委員会 公募委員
竹内 敏子	中京大学 教授
日比野 勝	元学校法人河合塾特別顧問
吉田 淳	愛知教育大学 教授

（五十音順・敬称略）

主な意見は、5 つの「施策の基本的方向」単位で、次ページ以降にまとめました。

## (1) 「なごやっ子」としての資質を育む“学び”の提供

### 施策1 郷土に対する愛着と理解を深め、国際化に対応し、未来に目を向ける素養を育みます

- 自分の郷土のことを知る機会を子どもに与えることはとても大事。信長・秀吉・家康の出身地であることに加え、この地域で生まれた武将が全国に散らばって活躍している。日本人の気質、精神文化の重みが名古屋にあるということを少し触れてもらおうとよいのではないか。
- 郷土を知ることは、自分のアイデンティティを確かめることになる。自分と相手のナショナリティを理解し合うところにインターナショナルがあるということを認識してもらえるとよい。
- 国際化とは単に英語が話せればよいということではなく、話すべき内容を持っていることが重要。地元との交流を深め、アイデンティティを高めることが国際化にもつながる。

### 施策2 基礎基本を着実に身に付け、個に応じて学力を伸ばすとともに、創造性あふれる心やチャレンジ精神を育みます

- 「国語の基礎的な学力が十分定着している児童の割合」が低い数値となっているのは残念。教育、中でも読み書き算術は、日本の国力の基礎である。これがなくなると、国の将来は必ず危ういと思うので、深刻に受け止めてもらいたい。
- 学習の基礎基本が分からない子どもは学校を嫌いになってしまう。勉強が分からない子どものためにも、少人数教育を進めてほしい。
- 基礎基本を身に付け主体的に学力を伸ばすことについて、基礎と応用の境目というのは難しい。基礎あるいは応用が身に付いているかどうかの判断基準として、「日本版 PISA」ともいえる全国学力・学習状況調査を利用していくべき。
- 名古屋市も中高一貫教育をするとよい。全国では 150 校ほどあると聞いているが、特にマイナスの意見は聞こえてこない。名古屋市立の高等学校は進学校から職業高校等の幅広いラインナップがあるので、ぜひ前向きに取り組んでほしい。

- 全国的な傾向として、子どもが学校外で勉強する時間が少なくなっている。宿題を出しているのに、やってこない子どもが多いと聞く。学力は学校で身に付ける力はもちろん、もう一つ重要なのは家庭等、学校外での学習である。家庭での教育の充実、家庭での学習への協力という点についても検討をしてほしい。

#### 施策 4 望ましい生活習慣を身に付けるとともに、生涯にわたって健康に過ごすための心身を育みます

- 子どもの体格は向上しているが、体力・運動能力は下がっている。生活様式の変化や体を動かすことができる場所が少なくなったことが原因のひとつ。スクールダンスサイズは、子どもたちが体を動かす喜び、楽しさを実感できる。年間を通して継続的に、そして学校だけでなく地域の中でも取組んでいくことが大切である。
- 部活動の外部指導者について、大学生等の若い指導者の中には、経験不足で、技術だけを教えるようなこともある。スポーツを教えるということは、技術の習得だけではなく、人間性を育てることでもある。保護者・学校・外部指導者の三者間でしっかり話し合い、いろいろなことを決めておくことが大切である。
- 男子と女子を比べると、女子のスポーツ活動があまり活発でない。その要因として女性の指導者が少ないことが挙げられる。女性の指導者の養成・資質の向上に取り組んでいただきたい。

#### 施策 5 夢や目標の実現のために、生涯にわたり、あらゆる機会と場所で学び続ける意欲と習慣を育みます

- 子どもたちが、博物館で歴史的な成果物に、美術館ですばらしい美術品に、科学館で最新のテクノロジーに接することで、好奇心がインスパイアされる。なるべく多くの子どものに見てもらうことに意義がある。
- 博物館や美術館が行っている出前授業は、子どもたちにとって大きな効果が上がっている。他にもいろいろな事業について出前授業を行っているが、このような学校教育と連携した取組みを、もっと実施するとよい。
- 本を読まない高校生の割合が大変高い。朝の時間を読書の時間にすることで本に触れる機会が増えれば、本に興味を持ってくれる子どもも増えると思う。

- 博物館施設では、小学校低学年・中学年の参加が多く、小学校高学年や中学生は少ない。小学校高学年や中学生には、見るだけでなく、より参加して学べる機会があるとよい。小学校低学年・中学年は、親子で来ることが多いため、親子で楽しめるような工夫が必要である。

## (2) 教育環境の整備と、教員の意欲・資質の向上

### 施策6-1 誰もが楽しく通うことのできる学校づくりを進めます (特別支援教育)

- 特別支援教育については、最近、とてもきめ細やかな対応になっている。障害児の対応の仕方は一人ひとり異なるので、このようなきめ細やかな対応を続けてほしい。
- 重度な障害についてはかなりの施策が行われているが、軽度な障害についてはさまざまな児童生徒に対応していくことが難しく、悩みを持っている教員も多い。教員への指導・支援を含めて考えていく必要がある。

### 施策6-2 誰もが楽しく通うことのできる学校づくりを進めます (いじめ・不登校対策)

- いじめに関して、教育の範疇としては、「あなたには生きて自分を主張する権利があるが、相手にも生きていて自分を主張する権利がある」ということをねばり強く教えていくことしかないのではないか。
- 地域との連携なくして、いじめ問題や不登校の問題で成果は出ない。地域のことは地域の方が一番よく知っているし、学校の先生や親には言えないことでも、地域のおばさんには言えるということもある。これも子どもたちに対する日頃の声かけや会話があればこそであり、コミュニケーションが大切だと思う。
- いじめ問題に対し、中学校ではクラス担任が各教科の先生と連携して学年全体で対応できるが、小学校ではクラス担任が一人でそれぞれのクラスを見ているので、先生たちの連携が取りにくいと思う。
- 不登校については、学校の復帰率を上げることが指標になっているが、学校以外の居場所という選択肢を子どもたちに示してあげられるとよい。学校に復帰させることに固執する必要はない。

○不登校の背景には、いじめや精神的ストレス等さまざまな課題があるが、学校の中にも気軽に相談できる場所があるということを保護者や子ども自身にも伝え、早期の対応につなげることが必要である。

#### **施策 7 快適に学ぶことのできる学校づくりを進めます**

○学習環境について、学校には最先端の設備が揃っているという魅力があるとよい。パソコンが教室にない等、IT 機器への投資がされていない。

#### **施策 8 地域に開かれ、信頼される学校づくりを進めます**

○学校評議員制は PTA だけでなく、地域の教育力を高めていくのに有効である。地域の持っている力を掘り起こすとともに、調整役としてコーディネーターのような人を置き、地域と学校をつなぐような制度をつくっていくことが必要である。

#### **施策 9 豊かな人間性と確かな指導力を持った教員を確保し、養成します**

○若手教員の指導・助言にあたるべき 30 代半ばの教員が少ない一方で、20 代の若手教員が多くなっており、若手教員の育成を中堅に求めることが難しくなっている。若手教員に対する支援が必要である。

○小学校教員は、教科により得手不得手がある。担当教科について専門性の高い中学校教員が、小学校教員へ助言・指導できる機会や体制を構築できるとよい。

○研修機会を充実することで、教員への負担が増加することが考えられる。その負担増をどう補っていくか等、バックアップの体制づくりを含めて検討してほしい。例えば、保護者や学生ボランティア、企業のボランティア等に貢献してもらえる仕組みづくりができないか。

#### **施策 10 子どもと向き合う時間を確保し、教育活動の充実を図ります**

○教員の多忙化については、学校内の OA 化等で効率を図ったとしても、仕組み自体を変えていかないと解決しない。大手予備校では、教壇に立たない担任がおり、生徒の生活の面倒、出席管理、家庭への連絡、進路指導等を請け負っている。教員は、教えることに特化させている。

- 学校が終わったら、校門の外に関しては保護者の責任であるという確認も必要だと思う。教員に教えるエネルギーが無くなってしまう。

### **(3) 学校・家庭・地域の連携**

#### **施策 1 1 親子のふれあいと、家庭の教育力の向上を支援します**

- 親学や PTA の活動に、子育てや家庭教育を一生懸命やっている方はよく参加しているのに対し、関心の薄い人は参加していない。家庭教育がしっかりできていないといけない。親学を実践する人を一人でも多くしてほしい。
- PTA の集まる場は多々用意されているが、いつも来る人は同じ。集会やセミナーをただで満足するのではなく、多くの人に参加してもらえようように中身を充実させてほしい。

#### **施策 1 2 地域のつながりを大切にし、地域全体で子どもを見守り、育みます**

- PTA は活動として少し弱い面があると思っているが、女性会をはじめ各種団体をもっと連携して活動することが大切である。今まで以上に力を入れて、青少年の健全育成に取り組んでほしい。
- 例えばいじめであっても、いろいろな施策が、実際に取り組む地域の方々に浸透していなければうまくいかない。先生が大変忙しい分、子どもたちのことをよく把握している家庭や地域が見ていかないといけない。

### **(5) 生涯を通じた学びの支援**

#### **施策 1 7 名古屋の歴史や文化に根ざした魅力を大切にし、発信します**

- 博物館・美術館等で、なごやおもてなし武将隊等と連携しながら、効果的に名古屋の歴史や魅力等を PR できる方法を検討してはどうか。